

## 第3部 調査結果の概要Ⅱ



## 第3部 調査結果の概要Ⅱ

### 第1章 こども・若者のウェルビーイングに関連した分析

#### 1. 生活満足度と他変数の関連【10歳～14歳、15歳～39歳】

生活満足度と他変数とのクロス分析を行った。現在の生活満足度を「0点（全く満足していない）」から「10点（非常に満足している）」までの範囲で聞き、比較においては、おもに7点以上（7～10点）と回答した者の割合をみている。<sup>1</sup>

（1）10歳～14歳対象調査（図表3-1-1-1-1）

- ① 尊重してくれる人の有無別<sup>2</sup>（問17-1）：10歳～14歳対象調査では、『尊重してくれる人がいない』の該当サンプルサイズが35人と小さいため、参考値として掲載し、コメントは割愛する。
- ② 周囲の大人の様子別（問18）：〈周囲の大人が幸せそうに感じるか〉別にみると、7点以上の回答をした割合は、『幸せそうに感じる』（「幸せそうに感じる」＋「どちらかといえば幸せそうに感じる」）の方が、『幸せそうに感じない』（「幸せそうに感じない」＋「どちらかといえば幸せそうに感じない」）より約27ポイント高い。
- ③ 自由時間の充足度別（問15）：〈普段の生活の中で自由時間やリラックスして過ごす時間が足りているか〉別に見ると、7点以上の回答をした割合は、『足りていると思う』（「足りていると思う」＋「どちらかといえば足りていると思う」）の方が、『足りていないと思う』（「足りていないと思う」＋「どちらかといえば足りていないと思う」）より約24ポイント以上高い。
- ④ 心身の健康状態別（問16）：心の健康状態別にみると、7点以上の回答をした割合は、『よい』（「よい」＋「まあよい」）の方が、『よくない』（「よくない」＋「あまりよくない」）より約51ポイント高い。同様に身体の健康状態別にみると、『よい』の方が『よくない』より約30ポイント高い。
- ⑤ 物事がうまくいかず落ち込んだ経験別<sup>3</sup>（問19、問20）：ものごとがうまくいかず落ち込んだ経験と、そこから回復した経験の有無別に7点以上の回答をした割合をみると、『落ち込んだ経験あり、回復経験あり』は82.6%で、『落ち込んだ経験なし』（92.0%）より約10ポイント低い。

<sup>1</sup> 「こども大綱」（令和5年12月22日閣議決定）別紙1の注2において、7点以上（7～10点）を「生活に満足している」と位置付けている（P54）。また、PISA2018においても7点以上を“satisfied”と位置付けている（PISA 2018 Results (Volume III) (EN) [https://www.oecd.org/en/publications/pisa-2018-results-volume-iii\\_acd78851-en.html](https://www.oecd.org/en/publications/pisa-2018-results-volume-iii_acd78851-en.html)）。

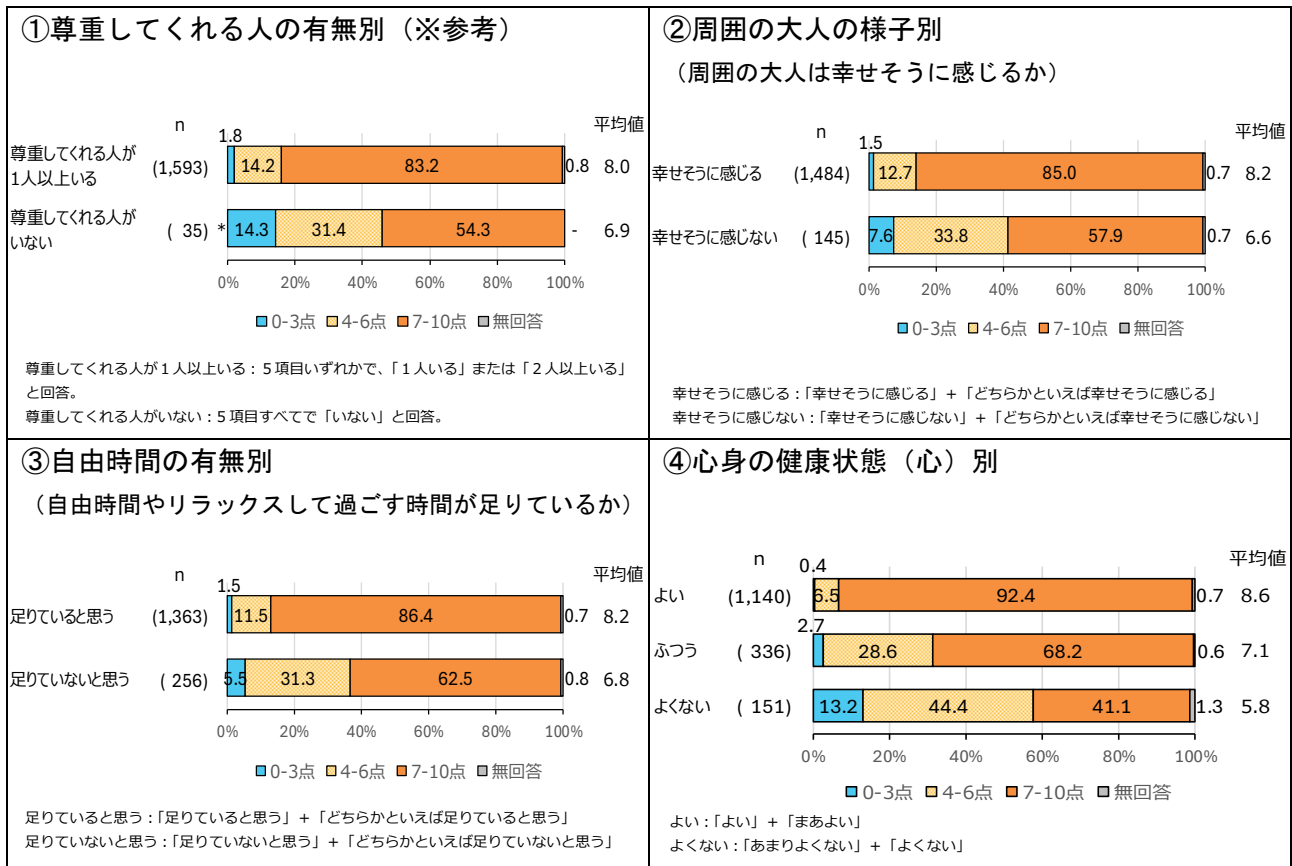
<sup>2</sup> 回答者の周囲に、回答者の個性・多様性・意見を尊重してくれる人がいるかを聞いた設問（問17-1）において、“他の人とちがっていても、同じでも、私を大切にしてくれる”、“私の話を聴くためだけに時間をとってくれる”、“決めつけや思い込みをしないで、私の話を聴いてくれる”、“私について何か決めるときに、私の意見を聴きながら一緒に考えてくれる”、“私の意見を大切にしてくれる”の5項目のうち1項目以上で「1人いる」または「2人以上いる」と回答したサンプルは、「尊重してくれる人が1人以上いる」と集計し、5項目すべてで「いない」と回答したサンプルは「尊重してくれる人がいない」として集計した。

<sup>3</sup> 物事がうまくいかず落ち込んだ経験（問19）について「あった（または現在ある）」または「どちらかといえば、あった（ある）」と回答した者は『落ち込み経験あり』、「なかった（ない）」または「どちらかといえば、なかった（ない）」と回答した者は『落ち込んだ経験なし』と分類している。落ち込んだ経験がある者のうち、落ち込んだ状態から元に戻った経験（問20）が「あった」または「どちらかといえば、あった」と回答した者を『回復経験あり』、「なかった」「どちらかといえば、なかった」と回答した者を『回復経験なし』としている。

⑥ 場所の数別：〈安心できる場所の数別〉<sup>4</sup>にみると、7点以上の回答をした割合は、場所の数が『1個』、『2個』では6割半～7割のところ、3個以上では数が増えるほど高くなっており、『5個』では約9割となる。

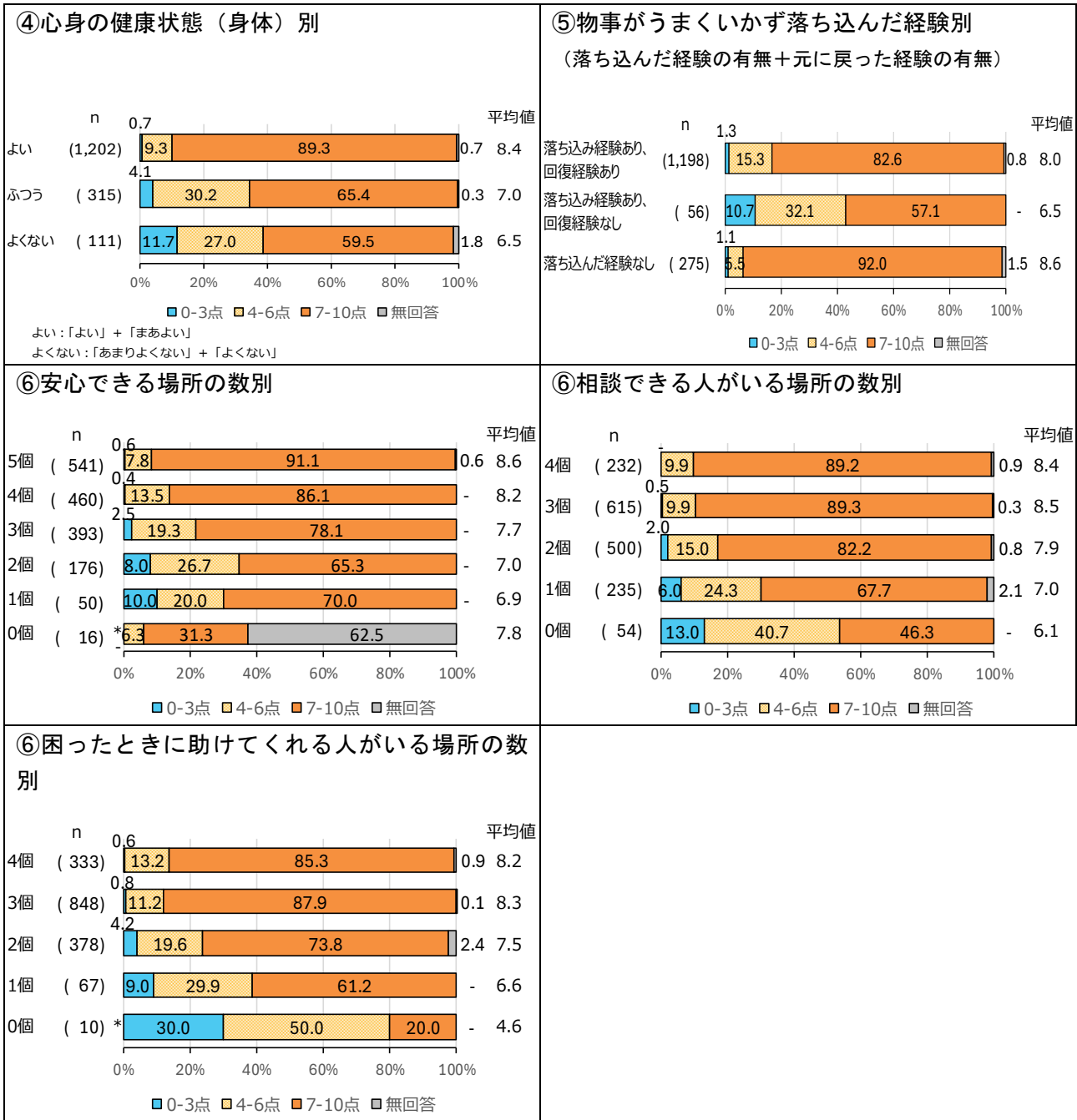
〈相談できる人がいる場所の数〉<sup>5</sup>別にみると、場所の数が『0個』から『3個』までは、数が増えるほど7点以上の回答をした割合が高くなる。〈助けてくれる人がいる場所の数〉<sup>5</sup>も同様に、場所の数が『1個』から『3個』までは、数が増えるほど7点以上の回答をした割合が高くなる。

図表 3-1-1-1-1 「生活満足度」と他変数の関連【10歳～14歳】\*はサンプル数50未満につき参考値



4 “自分の部屋”、“家庭（親せきの家を含む）”、“学校”、“地域（図書館や公民館や公園など、現在住んでいる場所やそこにある建物など）”、“インターネット空間（SNS、YouTube やオンラインゲームなど）”の5つの場所について、それぞれ、回答者にとって居場所（ほっとできる場所、安心できる場所）になっているかを聞き、肯定的な回答（「そう思う」または「どちらかといえば、そう思う」）をした数を回答者ごとに合計した。5つの場所すべてで肯定的な回答が無い場合（無回答を含む）は「0個」として集計している（問4）。

5 「家族・親せき」（問7）、「学校で出会った友だち（現在通っている学校やこれまでに通っていた学校の友だちなど）」（問8）、「地域の人（近所の人、塾や習い事での友だちなど）」（問9）、「インターネット上における人やグループ（実際には会ったことがなかったり、または、何回か会ったことはあっても、基本的にはインターネット中心の付き合いの人やグループ）」（問10）との関わり方に関する設問内で、「何でも悩みを相談できる人がいる」という項目に対して「そう思う」または「どちらかといえば、そう思う」と回答した数を、回答者ごとに合計したもの。4つの場所すべてで肯定的な回答が無い場合（無回答を含む）は「0個」として集計している。項目「こまったときは助けてくれる」という項目についても同様に集計。



(2) 15歳～39歳対象調査（図表 3-1-1-2-1）

- ① 尊重してくれる人の有無別<sup>6</sup>（問 18-1）：尊重してくれる人の有無別にみると、7点以上の回答をした割合が、『尊重してくれる人が1人以上いる』では58.5%で、『尊重してくれる人がいない』(33.0%)より約26ポイント高い。
- ② 周囲の大人の様子別（問 19）：〈周囲の大人が幸せそうに感じるか〉別にみると、7点以上の回答をした割合は、『幸せそうに感じる』（「幸せそうに感じる」+「どちらかといえば幸せそうに感じる」）の方が、『幸せそうに感じない』（「幸せそうに感じない」+「どちらかといえば幸せそうに感じない」）より約24ポイント高い。
- ③ 自由時間の充足度別（問 16）：〈普段の生活の中で自由時間やリラックスして過ごす時間が足りているか〉別にみると、7点以上の回答をした割合は、『足りていると思う』（「足りていると思う」+「どちらかといえば足りていると思う」）の方が、『足りていないと思う』（「足りていないと思う」+「どちらかといえば足りていないと思う」）より約22ポイント高い。
- ④ 心身の健康状態別（問 17）：心の健康状態別にみると、7点以上の回答をした割合は、『よい』（「よい」+「まあよい」）の方が、『よくない』（「よくない」+「あまりよくない」）より約53ポイント高い。同様に身体の状態別にみると、『よい』の方が、『よくない』より約39ポイント高い。
- ⑤ 困難に直面した経験別（問 20、問 22）：社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験と、そこから回復した経験の有無別に7点以上の回答をした割合をみると、『落ち込み経験あり、回復経験あり』は52.7%で、『落ち込み経験あり、回復経験なし』より約15ポイント高く、『落ち込んだ経験なし』より約18ポイント低い。
- ⑥ 場所の数別：〈安心できる場所の数<sup>7</sup>〉については、安心できる場所の数が増えるほど、7点以上の回答をした割合が高くなり、『0個』では2割弱のところ、『6個』では7割半となる。  
〈相談できる人がいる場所の数<sup>8</sup>〉と〈助けてくれる人がいる場所の数<sup>8</sup>〉については、場所の数が『0個』から『3個』までは、数が増えるほど7点以上の回答をした割合が高くなり、3個以上で6割半から約7割となる。
- ⑦ 家の暮らし向き別（F 6）：暮らし向き（物質的な生活水準を世間一般と比べたときの上から下まで5段階で回答）別に7点以上の回答をした割合をみると、「下」は16.1%、「中の下」は30.5%と約3割以下であるのに対し、全体の約半数を占める「中の中」は60.9%、「中の上」と「上」はともに79.2%と、主観的な暮らし向き階層が高いほど高くなっている。

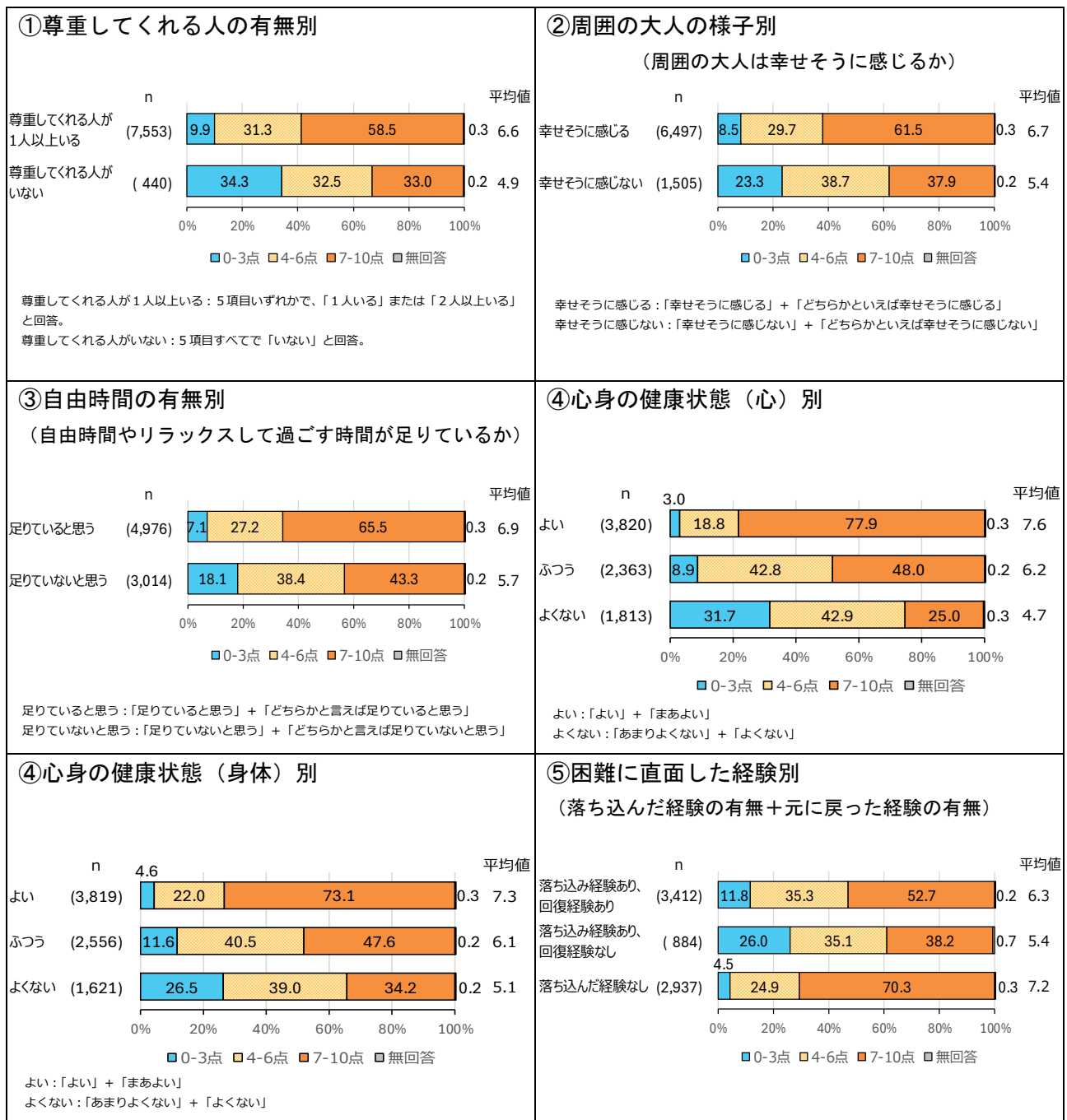
<sup>6</sup> 10歳～14歳対象調査における集計方法と同様に集計を行った。（P139 第2部第1章脚注2参照）

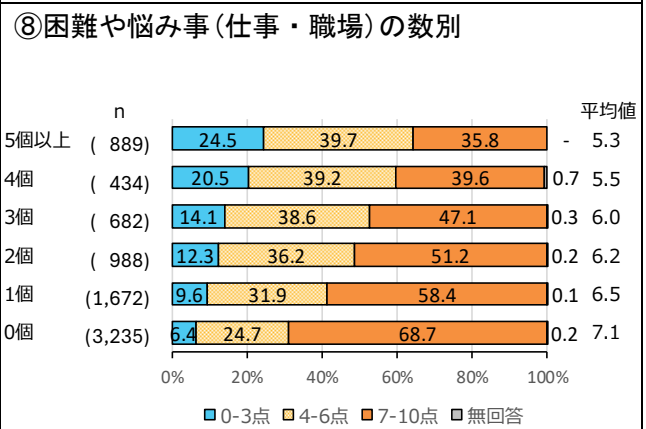
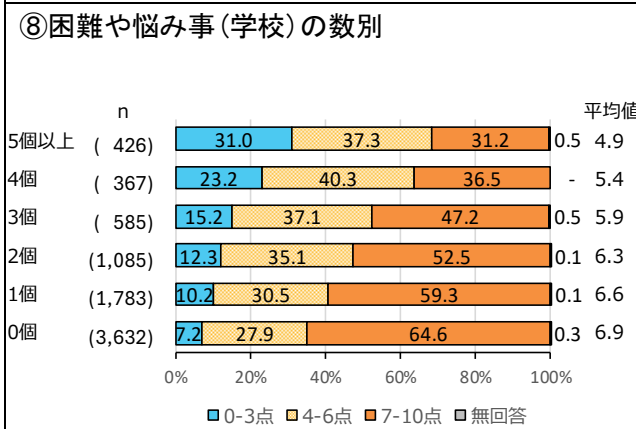
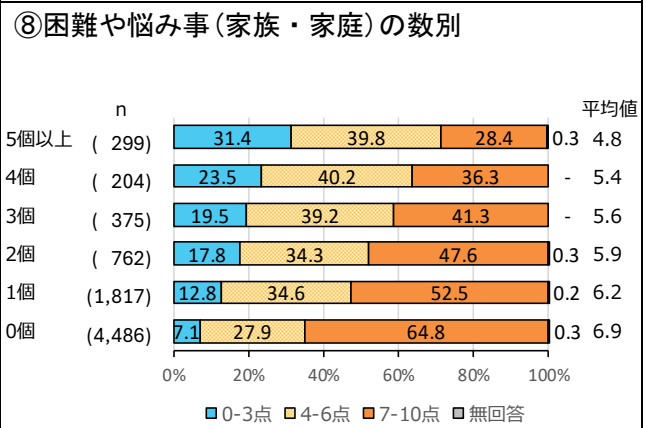
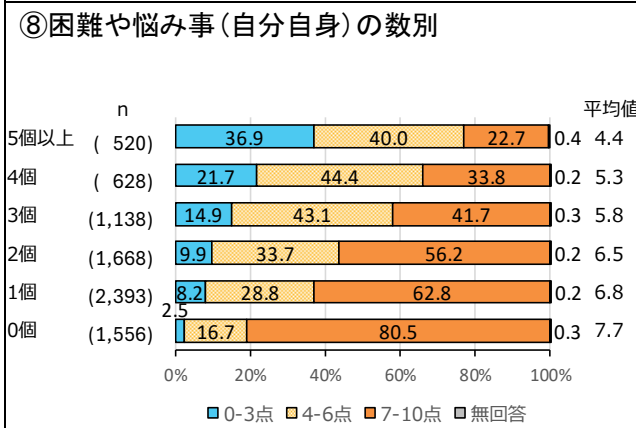
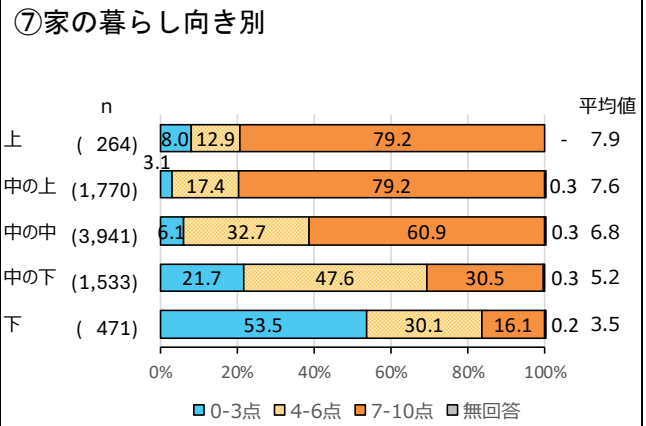
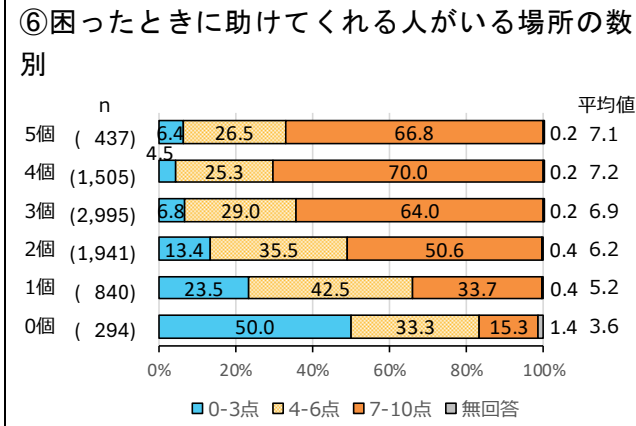
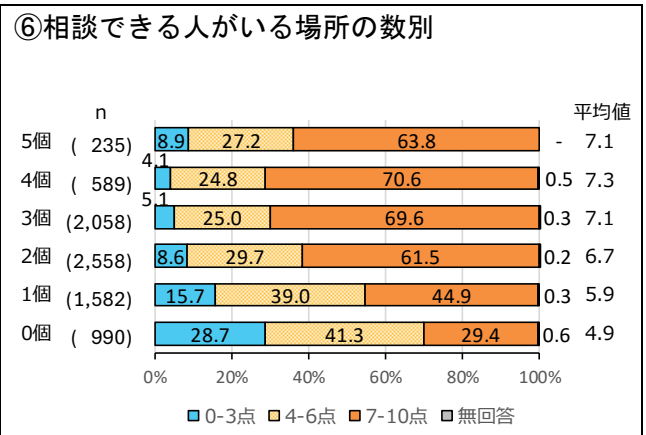
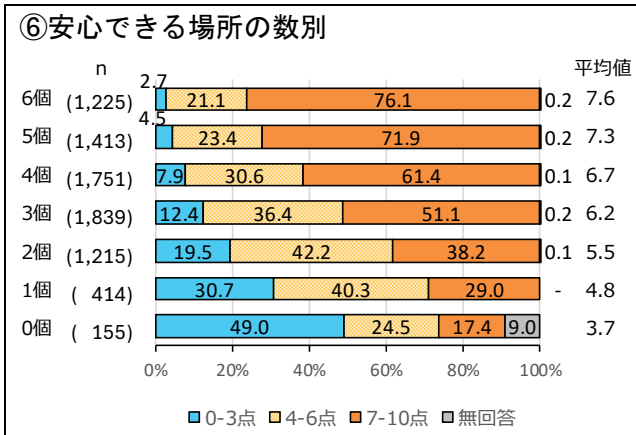
<sup>7</sup> 問4において“自分の部屋”、“家庭（実家や親族の家を含む）”、“学校（卒業した学校を含む）”、“職場（過去の職場を含む）”、“地域（図書館や公民館や公園など、現在住んでいる場所やそこにある建物など）”、“インターネット空間（SNS、YouTube やオンラインゲームなど）”の6つの場所について、それぞれ、回答者にとって居場所（ほっとできる場所、居心地の良い場所など）になっているかを聞き、肯定的な回答（「そう思う」または「どちらかといえば、そう思う」）をした数を回答者ごとに合計したもの。6つの場所すべてで肯定的な回答が無い場合（無回答を含む）は「0個」として集計している。

<sup>8</sup> 「家族・親族」（問7）、「学校で出会った友人（現在通っている学校の友人、かつての同窓生など）」（問8）、「職場・アルバイト関係の人（現在及び過去の職場の同僚・上司・部下、その他の仕事の関係で知り合った人など）」（問9）、「地域の人（近所の人、町内会などの知人、消防団などの地域活動での知人、塾や習い事での知人、参加している NPO 法人など）」（問10）、「インターネット上における人やグループ（実際には会ったことがなかったり、または、何回か会ったことはあっても、基本的にはインターネット中心の付き合いの人やグループ）」（問11）との関わり方に関する設問内で、「何でも悩みを相談できる人がいる」という項目に対して「そう思う」または「どちらかといえば、そう思う」と回答した数を、回答者ごとに合計したもの。5つの場所すべてで肯定的な回答が無い場合（無回答を含む）は「0個」として集計している。項目「困ったときは助けてくれる」という項目についても同様に集計。

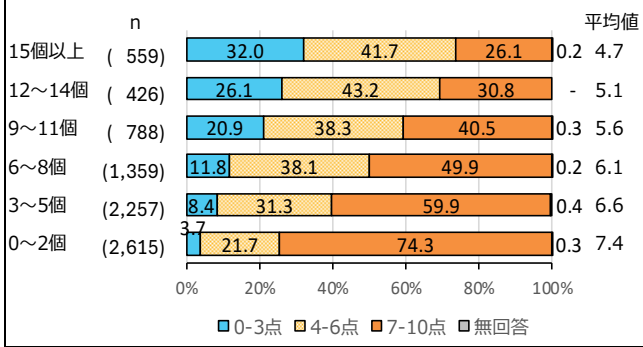
⑧ 困難や悩み事の数別（問 21）：“自分自身について”、“家族・家庭について”、“学校について”、“仕事・職場について”の4つの領域で、経験した困難や悩み事として複数回答で選択された回答数<sup>7</sup>（「特になし」を除く）別に、7点以上の回答をした割合をみた。いずれの領域でも、回答数が少ないほど、7点以上の回答をした割合は高くなり、特に“自分自身について”の回答数『0個』では80.5%と高い（他の3領域の『0個』では6割台である）。

図表 3-1-1-2-1 「生活満足度」と他変数の関連【15歳～39歳】





⑧困難や悩み事(合計)の数別



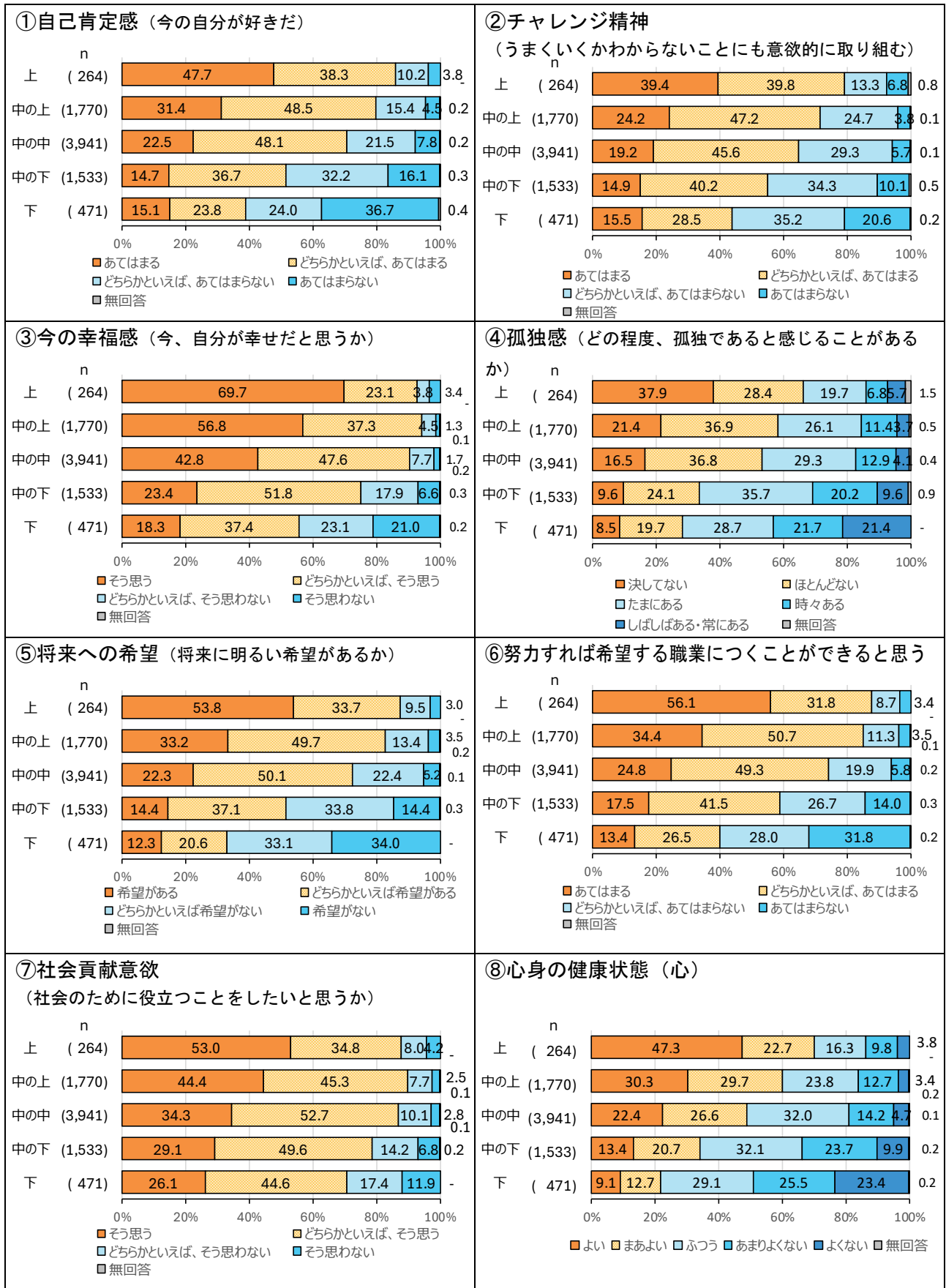
## 2. 家の暮らし向きと他変数の関連【15歳～39歳】

### (1) 15歳～39歳対象調査

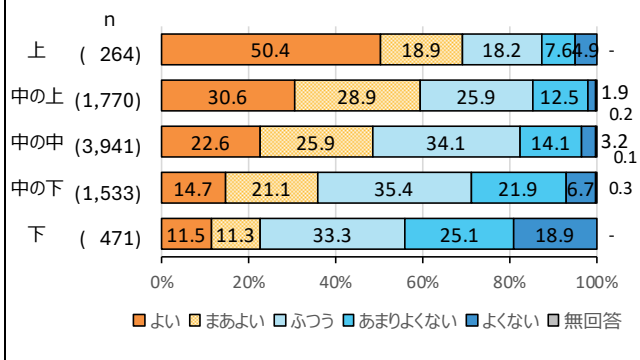
家の暮らし向きに関する回答別に、他変数との関係を見るクロス分析を行い、『あてはまる(計)』、『そう思う(計)』などの肯定的な回答の合計の割合を比較した(図表3-1-2-1-1)。

- ① 自己肯定感(今の自分が好きだ)(問1-1): 暮らし向きの評価が高いほど、肯定的な回答(「あてはまる」または「どちらかといえば、あてはまる」)の割合が高い。「上」では8割半のところ「中の上」は8割、「中の中」は約7割、「中の下」は約5割、「下」は約4割で、「上」は「下」より約47ポイント高い。
- ② チャレンジ精神(うまくいかないことにも意欲的に取り組む)(問1-1): 概ね暮らし向きの評価が高いほど、肯定的な回答(「あてはまる」または「どちらかといえば、あてはまる」)の割合が高い。「上」では約8割、「中の上」は約7割、「中の中」は6割半、「中の下」は5割半、「下」は約4割半で、「上」は「下」より約35ポイント高い。
- ③ 今の幸福感(問2): 「中の中」以上では「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」の合計割合が9割台であるが、「中の下」では7割半、「下」は5割半で、最も高い「中の中」以上は「下」より約35～38ポイント高い。
- ④ 孤独感(問6): 孤独を感じる頻度については、暮らし向きの評価が高いほど、孤独を感じない(「決してない」または「ほとんどない」と回答した割合が高い。「上」では6割半、「中の上」と「中の中」は5割台、「中の下」は3割半、「下」は3割弱で、「上」は「下」より約38ポイント高い。
- ⑤ 将来への希望(問14): 暮らし向きの評価が高いほど、肯定的な回答(「希望がある」または「どちらかといえば希望がある」)の割合が高い。「上」では9割弱、「中の上」は約8割、「中の中」は約7割、「中の下」は約5割、「下」は約3割で、「上」は「下」より約55ポイント高い。
- ⑥ 努力すれば希望する職業につくことができると思う(問1-1): 暮らし向きの評価が高いほど、肯定的な回答(「あてはまる」または「どちらかといえば、あてはまる」)の割合が高い。「中の上」以上は8割台後半、「中の中」は7割半、「中の下」は約6割、「下」は約4割で、「上」は「下」より約48ポイント高い。
- ⑦ 社会貢献意欲(問13): 肯定的な回答(「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」)の割合は、「中の中」以上では、いずれも約9割で大きな差がない。「中の下」以下では低くなるものの、「中の下」で約8割、「下」も約7割が社会のために役立つことをしたいと考えている。
- ⑧ 心身の健康状態(問17): 心の健康状態、身体の健康状態ともに、暮らし向きの評価が高いほど「よい」と「まあよい」の合計割合が高い。心と身体のいずれも、「上」は約7割、「中の上」は約6割、「中の中」は約5割、「中の下」が3割半、「下」は約2割で、「上」は「下」より、心の健康状態で約47ポイント、身体の健康状態で約48ポイント高い。

図表 3-1-2-1-1 「家の暮らし向き」と他変数の関連【15歳～39歳】



⑧心身の健康状態（身体）



### 3. 場の性質及び数と他変数の関連【10歳～14歳、15歳～39歳】

#### (1) 10歳～14歳対象調査

##### ①場ごとの認識

家庭、学校、地域、インターネット空間の4つの場ごとに、“安心できる場所になっている”<sup>9</sup>、“相談できる人がある”<sup>10</sup>、“助けてくれる人がある”<sup>10</sup>の3項目について、各該当設問での肯定的な回答（「そう思う」または「どちらかといえば、そう思う」）をした者の割合をみた（図表3-1-3-1-1）。

家庭に関しては、3項目いずれについても、肯定的な回答の割合が約9割と、4つの場の中で最も高い（“安心できる場所になっている”91.9%、“相談できる人がある”87.5%、“助けてくれる人がある”96.5%）。

学校に関しては、“安心できる場所になっている”（74.5%）、“相談できる人がある”（84.4%）、“助けてくれる人がある”（94.2%）と、3項目とも肯定的な回答の割合が7割から9割台と高い。

地域に関しては、“安心できる場所になっている”（60.1%）と“相談できる人がある”（52.6%）は、肯定的な回答の割合が5割から6割にとどまるが、“助けてくれる人がある”（72.7%）は7割以上となっている。

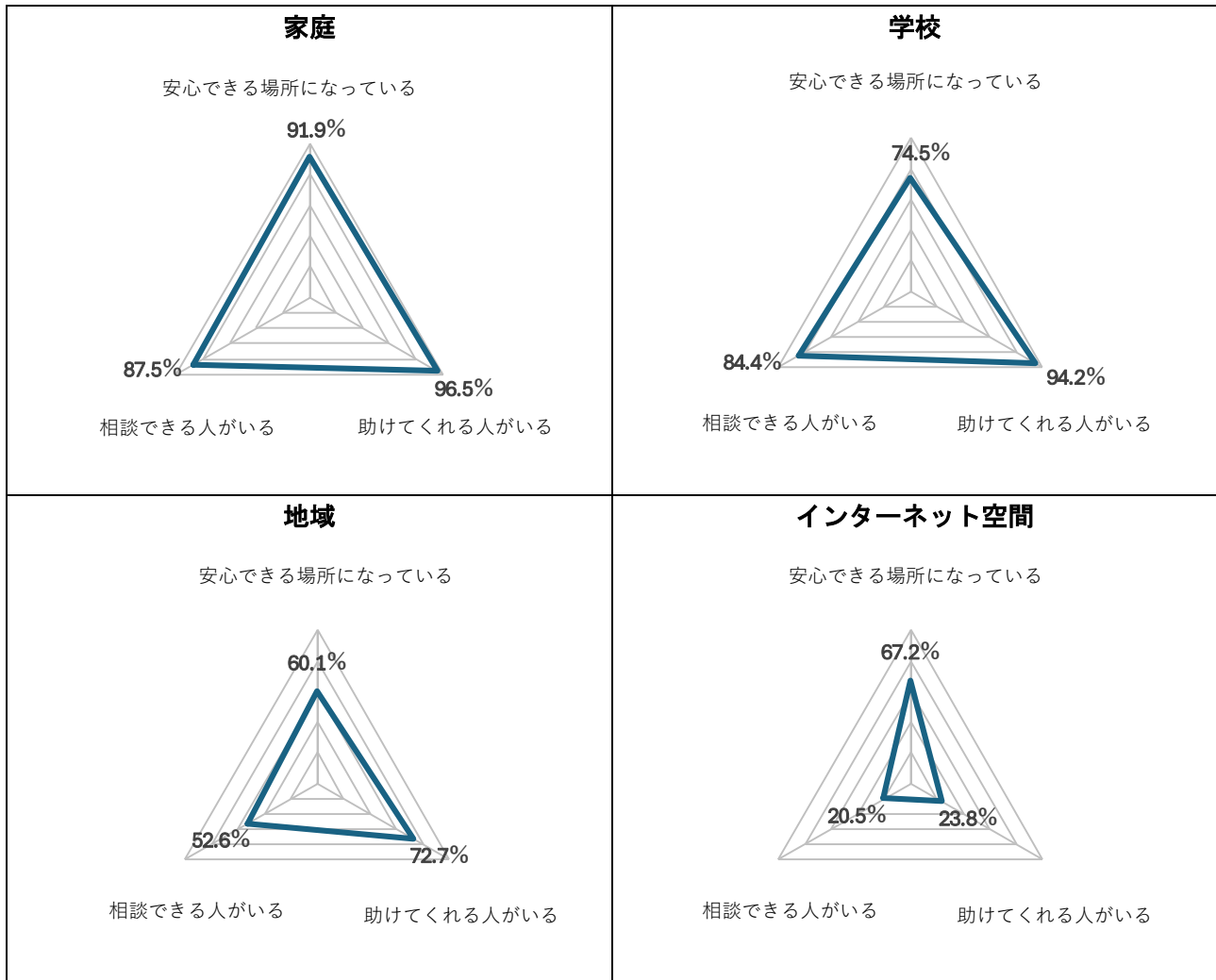
インターネット空間に関しては、“安心できる場所になっている”（67.2%）に対する肯定的な回答の割合が約7割と高い。一方、他の2項目については2割台（“相談できる人がある”20.5%、“助けてくれる人がある”23.8%）と、4つの場の中で最も低い。

---

<sup>9</sup> 「次の場所は、今のあなたにとって居場所（ほっとできる場所、安心できる場所など）になっていますか。」（問4）への回答。

<sup>10</sup> 「家族・親せきとあなたのかかわりは、どのようなものですか。」（問7）、「学校で出会った友だち（現在通っている学校やこれまでに通っていた学校の友だちなど）と、あなたのかかわりは、どのようなものですか。」（問8）、「地域の人（近所の人、塾や習い事での友だちなど）とあなたのかかわりは、どのようなものですか。」（問9）、「インターネット上における人やグループ（実際には会ったことがなかったり、または、何回か会ったことはあっても、基本的にはインターネット中心の付き合いの人やグループ）と、あなたのかかわりは、どのようなものですか。」（問10）における項目「何でも悩みを相談できる人がある」、「こまったときは助けてくれる」それぞれへの回答。

図表 3-1-3-1-1 ①場ごとの認識【10歳～14歳】



## ②場の性質及び数と他変数の関連

“安心できる場所”、“相談できる人がいる場所”、“困ったときに助けてくれる人がいる場所”のそれぞれにあてはまる場の数<sup>11</sup>と他変数との関連をみた。クロス分析を行ったのは、〈自己肯定感〉、〈チャレンジ精神〉、〈今の幸福感〉、〈孤独感〉、〈将来への希望〉、〈社会貢献意欲〉、〈心身の健康状態（心）〉、〈心身の健康状態（身体）〉、〈困難が改善した経験<sup>12</sup>の9項目である。

(a) “安心できる場所”の数との関連（図表 3-1-3-1-2）：

①で示した家庭、学校、地域、インターネット空間の4つの場に“自分の部屋”を加えて、5個を最大値として比較した（図表 3-1-3-1-2）。いずれの項目も概ね、場所の数が増えるほど肯定的な回答の割合が高い傾向がみられた。

(b) “相談できる人がいる場所”、(c) “困ったときに助けてくれる人がいる場所”の数との関連（図表 3-1-3-1-3、図表 3-1-3-1-4）：

①で示した家庭、学校、地域、インターネット空間の4つの場について肯定的に回答した場の数で、4個を最大値として比較した（図表 3-1-3-1-3、図表 3-1-3-1-4）。(b) (c) とともに、

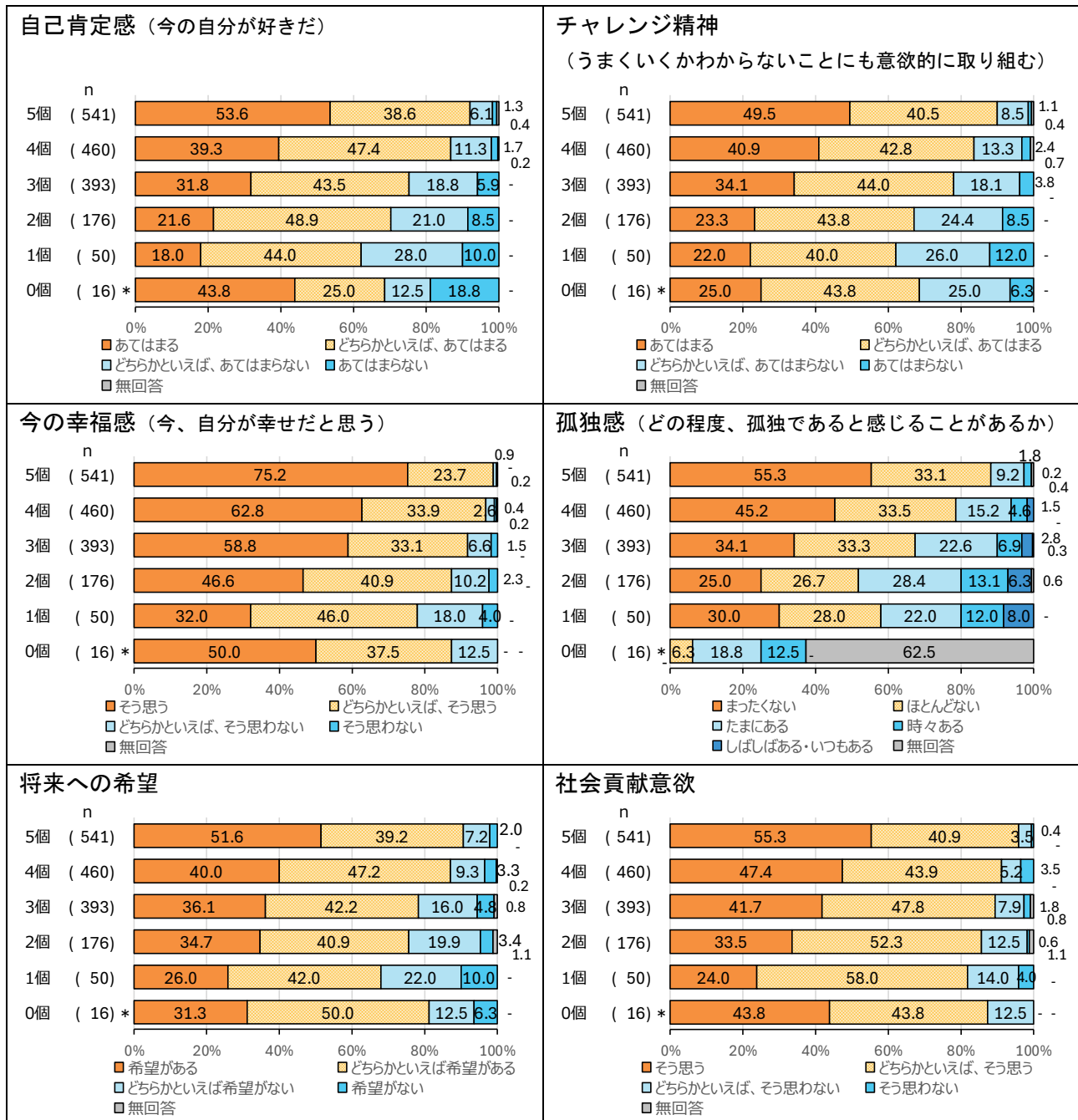
<sup>11</sup> P140 第2部第1章脚注4、脚注5参照。

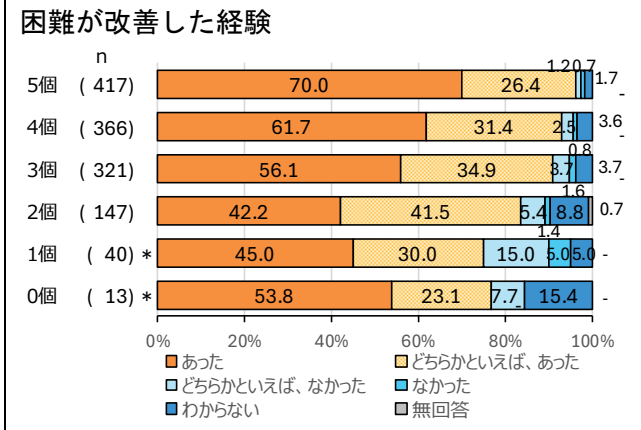
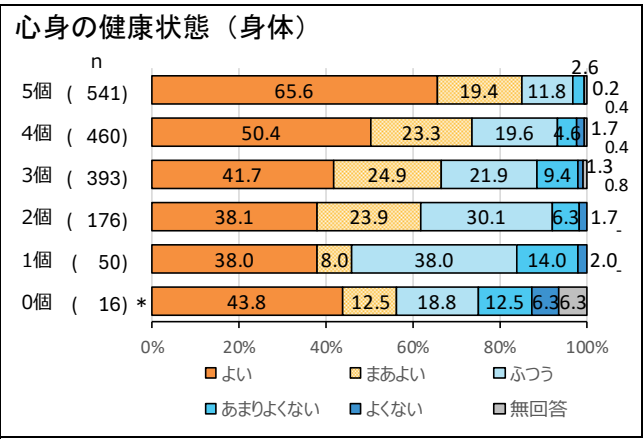
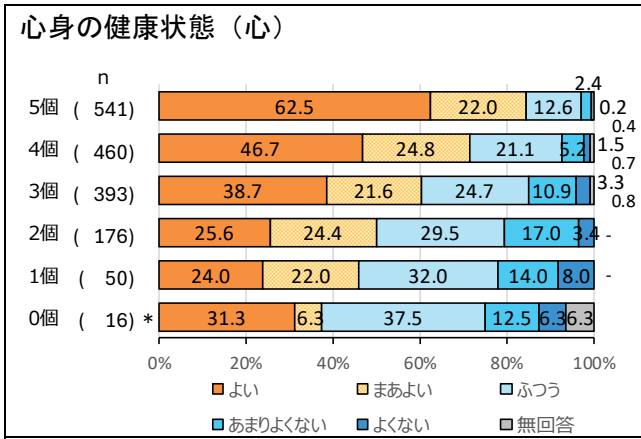
<sup>12</sup> 〈自己肯定感〉（問1-1 “今の自分が好きだ”）、〈チャレンジ精神〉（問1-1 “うまくいくかわからないことにもがんばって取り組む”）、〈今の幸福感〉（問2）、〈孤独感〉（問6）、〈将来への希望〉（問13）、〈社会貢献意欲〉（問12）、〈心身の健康状態（心）〉（問16ア）、〈心身の健康状態（身体）〉（問16イ）、〈困難が改善した経験〉（問20）

場所の数が多い方が肯定的な回答の割合が高いが、『3個』と『4個』では大きな違いが見られない項目が多い。

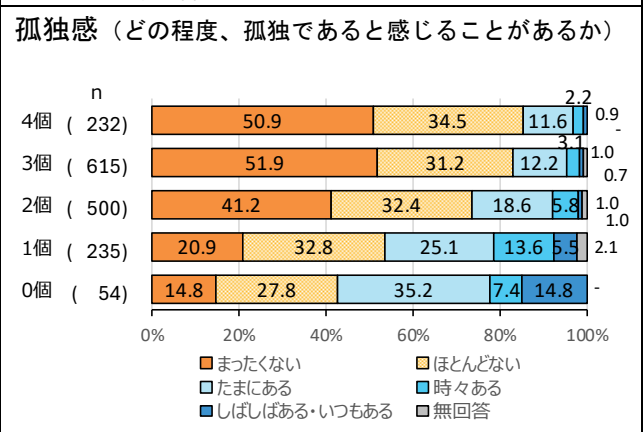
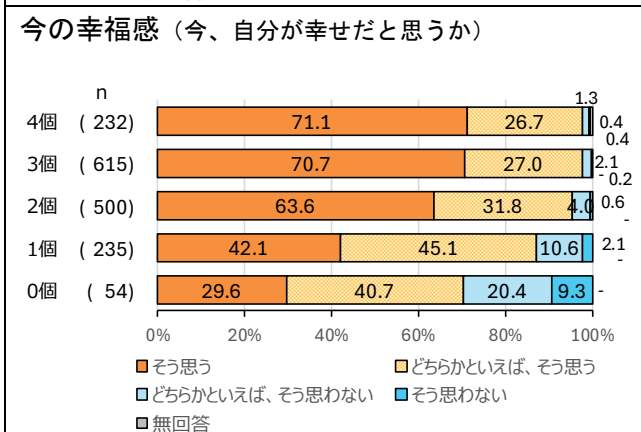
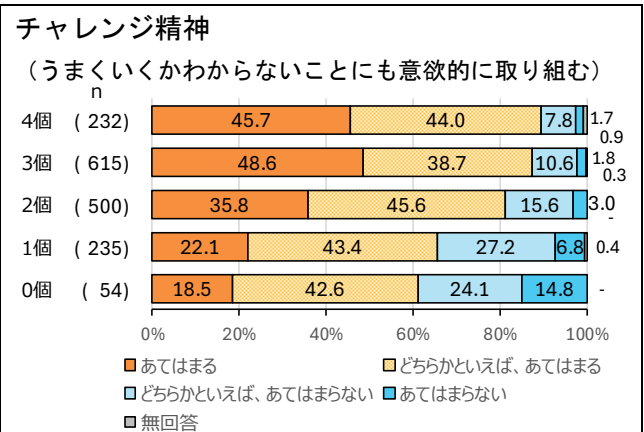
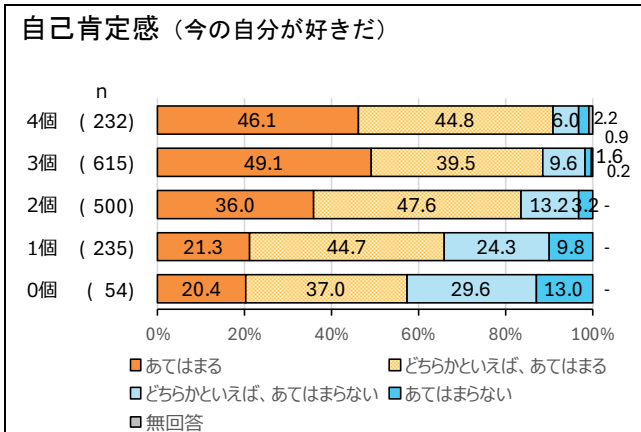
図表 3-1-3-1-2 ②場の性質及び数と他変数の関連 (a)“安心できる場所”の数【10歳～14歳】

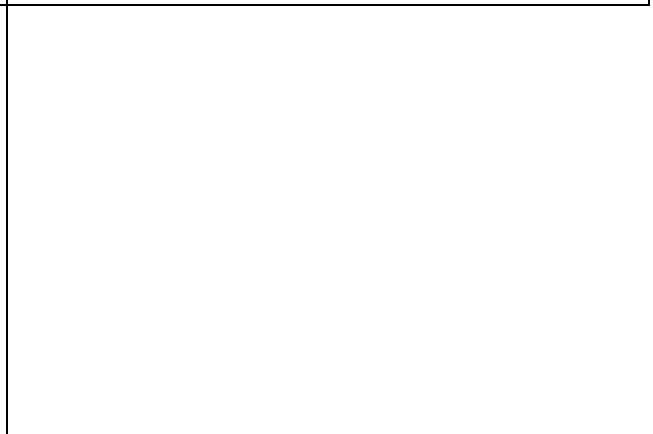
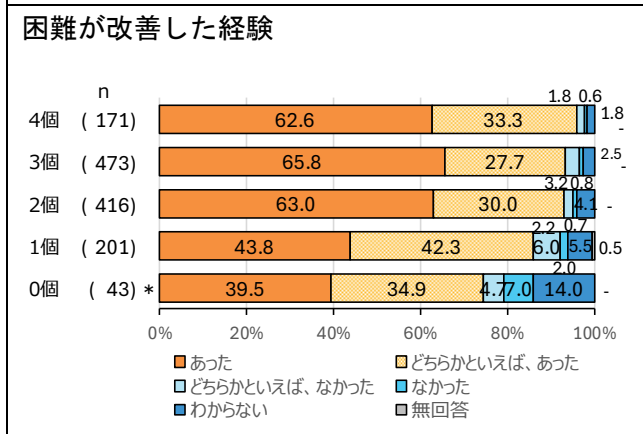
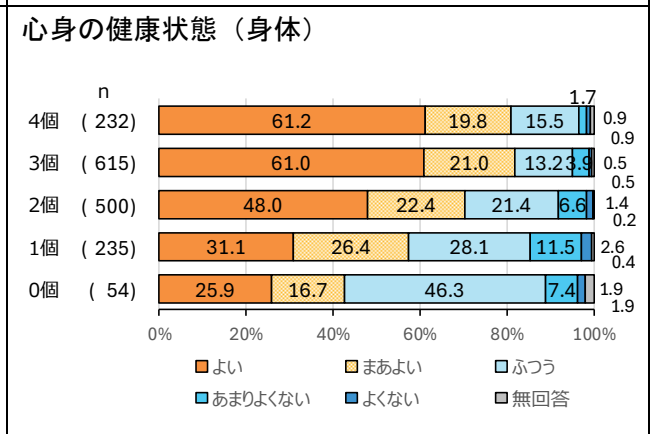
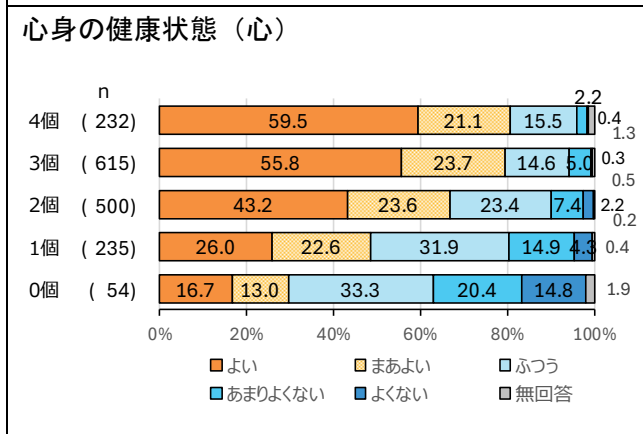
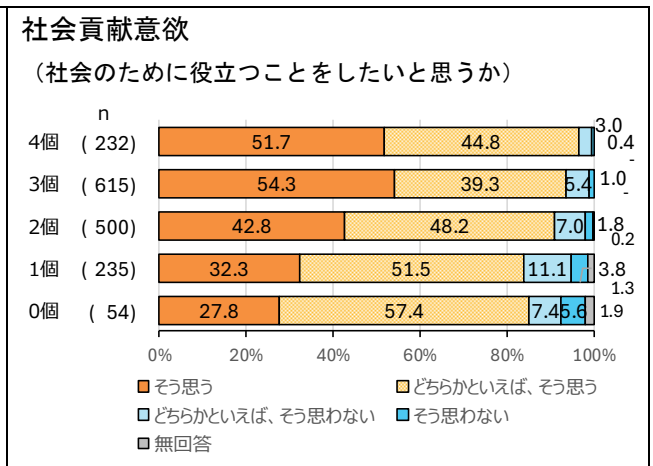
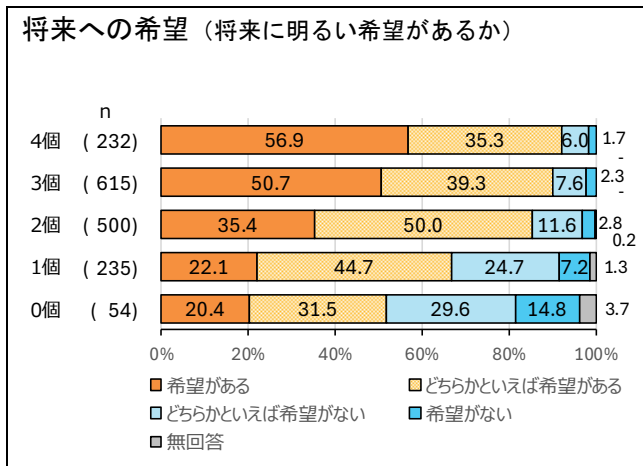
\*はサンプル数50未満につき参考値





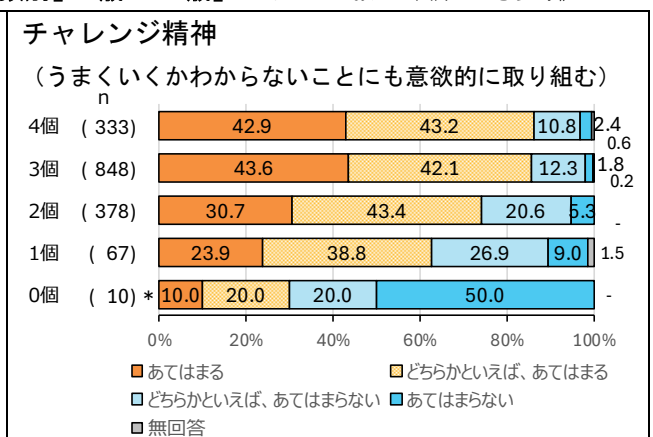
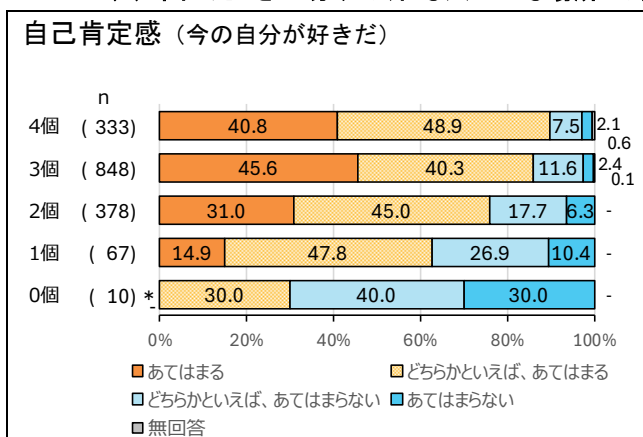
図表 3-1-3-1-3 ②場の性質及び数と他変数の関連 (b)“相談できる人がいる場所”の数別【10歳～14歳】



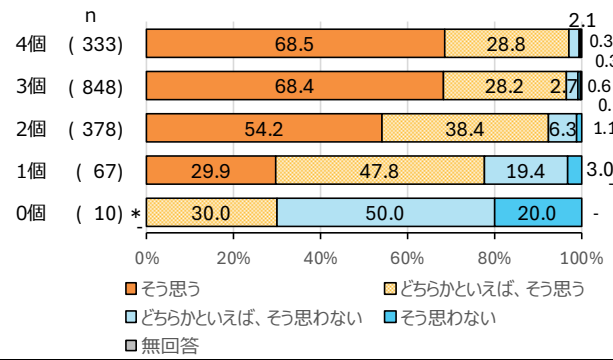


図表 3-1-3-1-4 ②場の性質及び数と他変数の関連

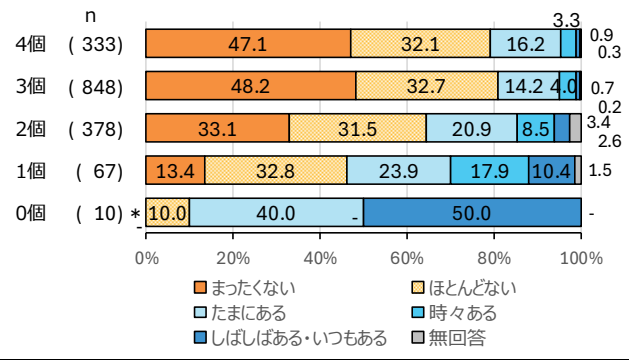
(c) “困ったときに助けてくれる人がいる場所”の数別【10歳～14歳】\*はサンプル数50未満につき参考値



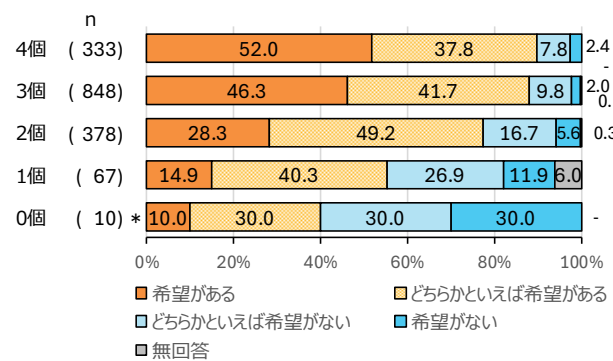
今の幸福感（今、自分が幸せだと思うか）



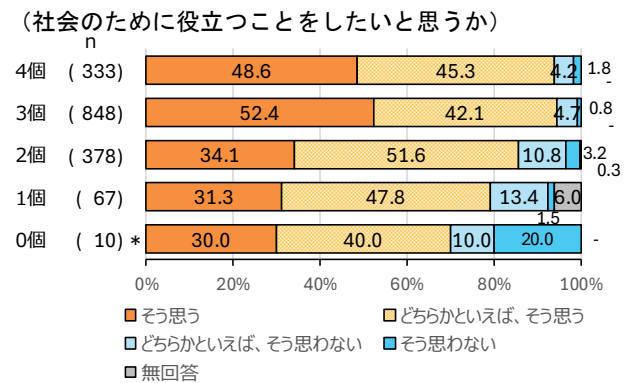
孤独感（どの程度、孤独であると感じることがあるか）



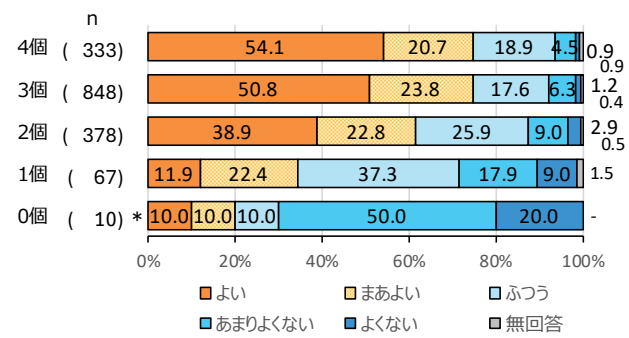
将来への希望（将来に明るい希望があるか）



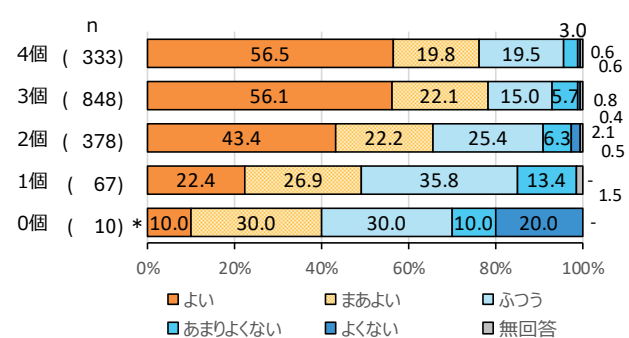
社会貢献意欲



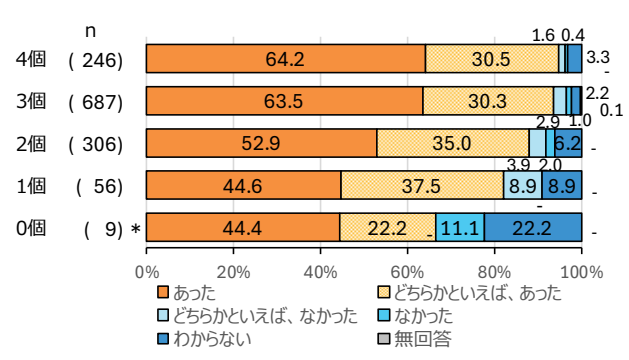
心身の健康状態（心）



心身の健康状態（身体）



困難が改善した経験



## (2) 15歳～39歳対象調査

### ①場ごとの認識

家庭、学校、地域、職場、インターネット空間の5つの場ごとに、“安心できる場所になっている”<sup>13</sup>、“相談できる人がいる”<sup>14</sup>、“助けてくれる人がいる”<sup>14</sup>の3項目について、各該当設問での肯定的な回答（「そう思う」または「どちらかといえば、そう思う」）をした者の割合をみた（図表3-1-3-2-1）。

家庭に関しては、3項目それぞれへの肯定的な回答の割合が、“安心できる場所になっている”が86.9%、“相談できる人がいる”が75.0%、“助けてくれる人がいる”が92.3%で、5つの場の中では最も高くなっている。

学校に関しては、“助けてくれる人がいる”に対する肯定的な回答が72.3%であった。回答者の約8割は既に学校に通ってはいないが、7割以上がそこで出会った人を“助けてくれる人”と認識している。“相談できる人がいる”に対する肯定的な回答は62.1%、“安心できる場所になっている”は46.5%であった。

地域に関しては、“安心できる場所になっている”に対する肯定的な回答が約5割（50.1%）で、“相談できる人がいる”は約1割（11.2%）、“助けてくれる人がいる”は約3割（27.4%）にとどまる。

職場に関しては、“助けてくれる人がいる”に対する肯定的な回答の割合が73.6%と高い一方、“安心できる場所になっている”は44.3%、“相談できる人がいる”は46.8%と4割台にとどまる。

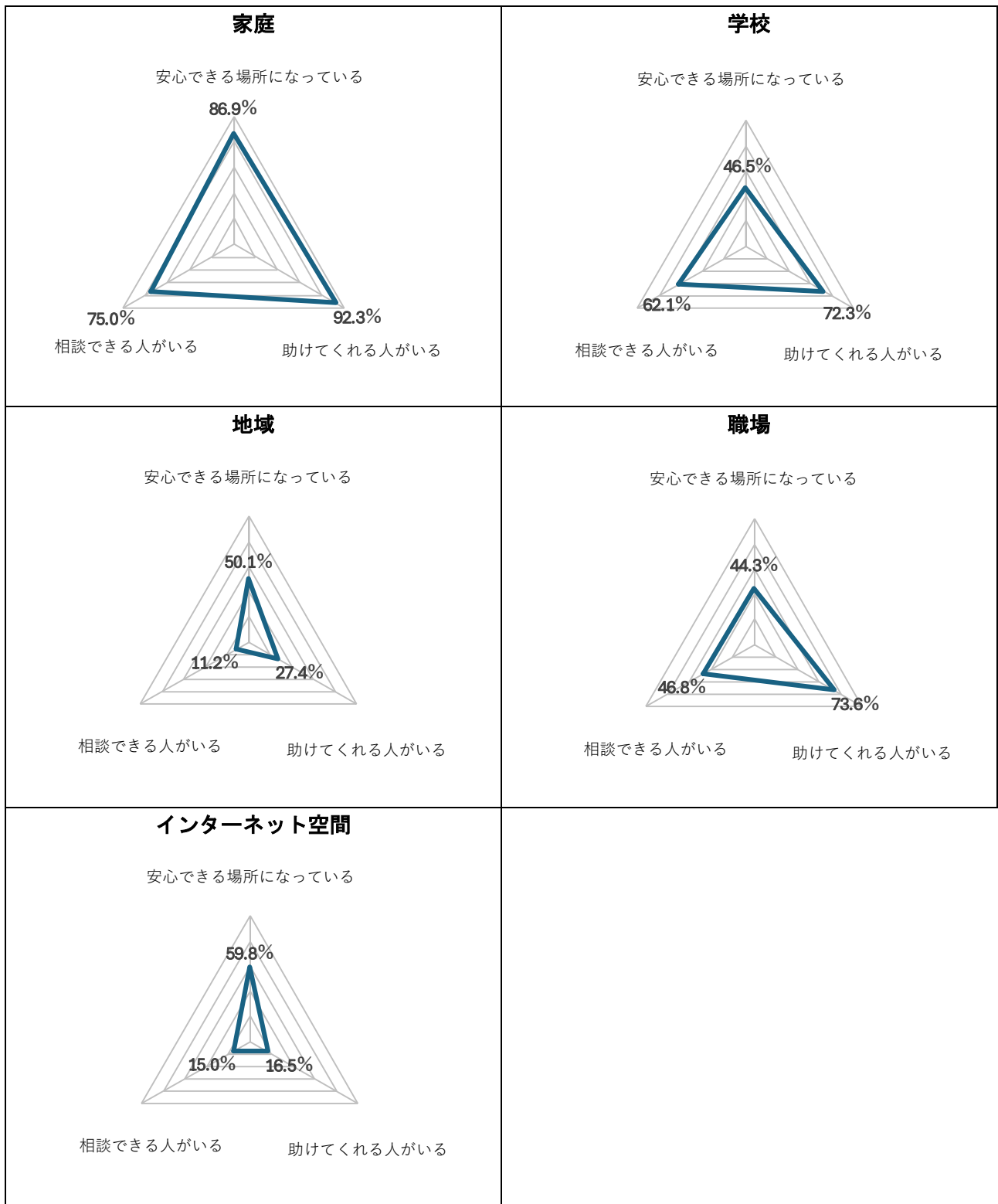
インターネット空間に関しては、“安心できる場所になっている”に対する肯定的な回答者の割合が約6割（59.8%）で、5つの場の中では“家庭”に次いで高い。一方、他の2項目については1割半程度（“相談できる人がいる”15.0%、“助けてくれる人がいる”16.5%）と低い。

---

<sup>13</sup> 「次の場所は、今のあなたにとって居場所（ほっとできる場所、居心地の良い場所など）になっていますか。」（問4）への回答。

<sup>14</sup> 「家族・親族とあなたのかかわりは、どのようなものですか。」（問7）、「学校で出会った友人（現在通っている学校の友人、かつての同窓生など）と、あなたの現在のかかわりは、どのようなものですか。」（問8）、「職場・アルバイト関係の人（現在及び過去の職場の同僚・上司・部下、その他仕事の関係で知り合った人など）と、あなたの現在のかかわりは、どのようなものですか。」（問9）、「地域の人（近所の人。町内会などの知人、消防団などの地域活動での知人、塾や習い事での知人、参加しているNPO法人など）と、あなたのかかわりは、どのようなものですか。」（問10）、「インターネット上における人やグループ（実際には会ったことがなかったり、または、何回か会ったことはあっても、基本的にはインターネット中心の付き合いの人やグループ）と、あなたのかかわりは、どのようなものですか。」（問11）という設問における項目「何でも悩みを相談人がいる」、「困ったときは助けてくれる」それぞれへの回答。

図表 3-1-3-2-1 場ごとの認識【15歳～39歳】



## ②場の性質及び数と他変数の関連

“安心できる場所”、“相談できる人がいる場所”、“困ったときに助けてくれる人がいる場所”のそれぞれにあてはまる場の数と他変数の関連をみた。クロス分析を行ったのは、〈自己肯定感〉、〈チャレンジ精神〉、〈今の幸福感〉、〈孤独感〉、〈将来への希望〉、〈社会貢献意欲〉、〈心身の健康状態（心）〉、〈心身の健康状態（身体）〉、〈育成支援機関等の認知度〉、〈育成支援機関等の利用意向〉、〈相談の希望〉、〈困難が改善した経験〉の12項目<sup>15</sup>である。“安心できる場所”の数は、①で示した家庭、学校、地域、職場、インターネット空間の5つの場に、“自分の部屋”を加えて、6個を最大値として比較した。“相談できる人がいる場所”の数と“困ったときに助けてくれる人がいる場所”の数は、家庭、学校、地域、職場、インターネット空間の5個を最大値として比較した。

### (a) “安心できる場所”の数との関連（図表 3-1-3-2-2）：

〈自己肯定感〉、〈チャレンジ精神〉、〈今の幸福感〉、〈孤独感〉、〈将来への希望〉、〈社会貢献意欲〉、〈心身の健康状態（心）〉、〈心身の健康状態（身体）〉では、場所の数が増えるほど肯定的な回答の割合が高い傾向がみられた。

〈育成支援機関等の認知度〉で「どれも知らない」、〈育成支援機関等の利用意向〉で『利用したいと思わない（計）』（「利用したいと思わない」と「どちらかといえば利用したいと思わない」の合計）、〈相談の希望〉で「誰にも相談したくない」はいずれも、概ね場所数が増えるほど緩やかに低くなるが、4個以上では大きな差はみられない。〈困難が改善した経験〉（問20で困難経験があると回答した者に絞って集計、以下同じ）で「あった」または「どちらかといえば、あった」と回答した割合は、『0個』から『5個』までは、場所数が増えるほど緩やかに高くなる。

### (b) “相談できる人がいる場所”の数との関連（図表 3-1-3-2-3）：

〈自己肯定感〉、〈チャレンジ精神〉、〈今の幸福感〉、〈孤独感〉、〈将来への希望〉、〈社会貢献意欲〉、〈心身の健康状態（心）〉、〈心身の健康状態（身体）〉では、概ね場所の数が増えるほど肯定的な回答の割合が高い傾向がみられた。

〈育成支援機関等の認知度〉で「どれも知らない」は、『0個』から『2個』までは場所数が増えるほど低くなるが、3個以上ではほぼ変わらない、または高くなっている。〈育成支援機関等の利用意向〉で『利用したいと思わない（計）』、〈相談の希望〉で「誰にも相談したくない」と回答した割合は、いずれも『0個』から『4個』までは場所数が増えるほど低くなるが、『5個』では高くなっている。〈困難が改善した経験〉で「あった」または「どちらかといえば、あった」と回答した割合は、『0個』が約6割に対し、『1個』から『4個』はいずれも7割台と高いが、『5個』では約6割となっている。

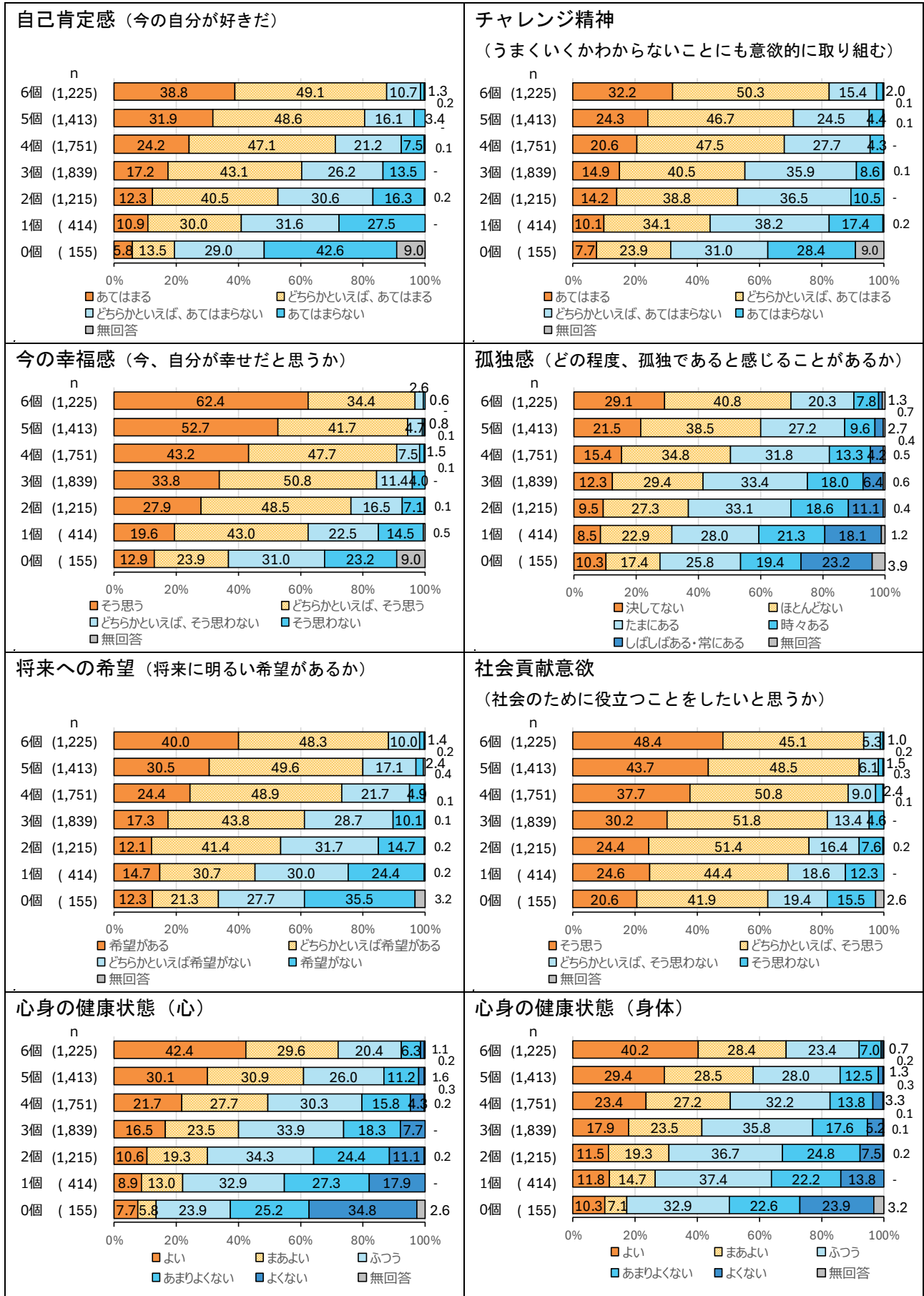
### (c) “困ったときに助けてくれる人がいる場所”の数との関連（図表 3-1-3-2-4）：

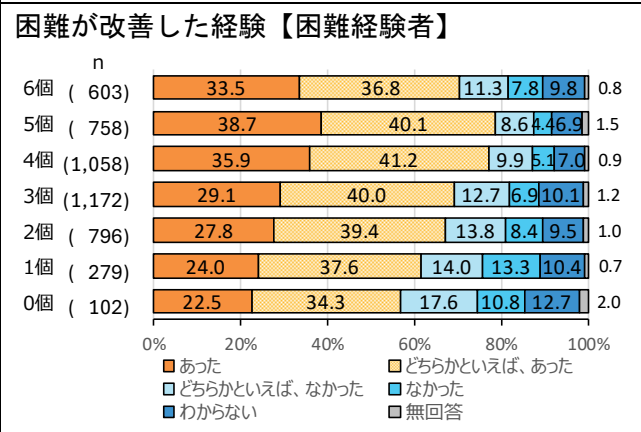
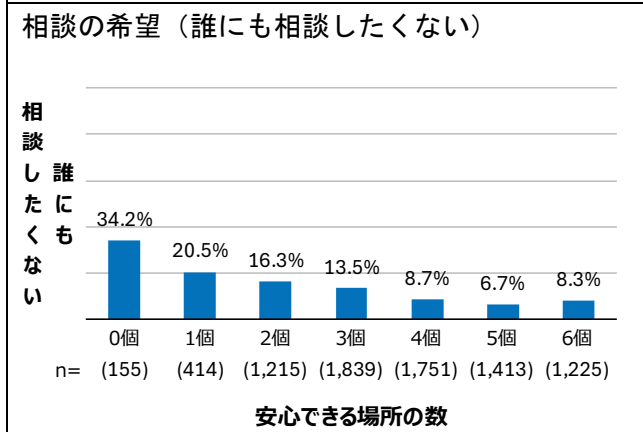
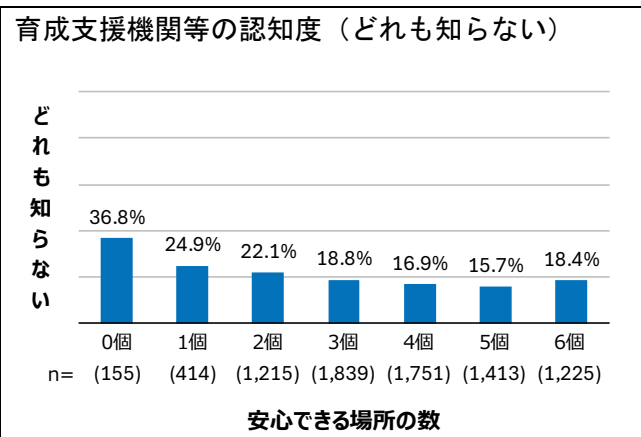
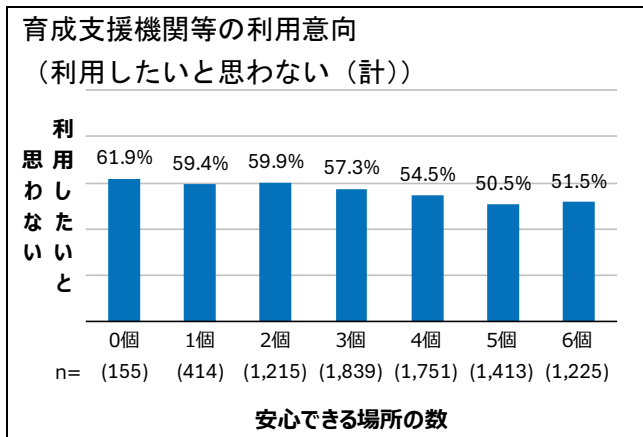
〈自己肯定感〉、〈チャレンジ精神〉、〈今の幸福感〉、〈孤独感〉、〈将来への希望〉、〈社会貢献意欲〉、〈心身の健康状態（心）〉、〈心身の健康状態（身体）〉では、概ね場所の数が増えるほど肯定的な回答の割合が高い傾向がみられた。

〈育成支援機関等の利用意向〉で『利用したいと思わない（計）』、〈育成支援機関等の認知度〉で「どれも知らない」、〈相談の希望〉で「誰にも相談したくない」と回答した割合は、いずれも『0個』から『4個』までは場所数が増えるほど低くなる傾向がみられ、〈育成支援機関等の認知度〉と〈相談の希望〉は、『5個』では高くなっている。〈困難が改善した経験〉で「あった」または「どちらかといえば、あった」と回答した割合は、『0個』が4割半と非常に低いのにに対し、『1個』から『5個』はいずれも約7割から7割半と高い。

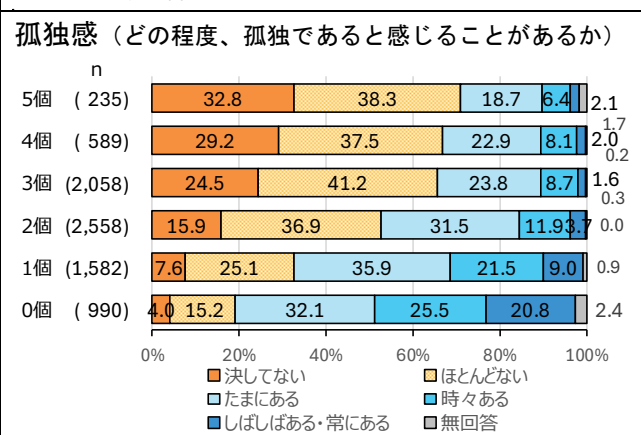
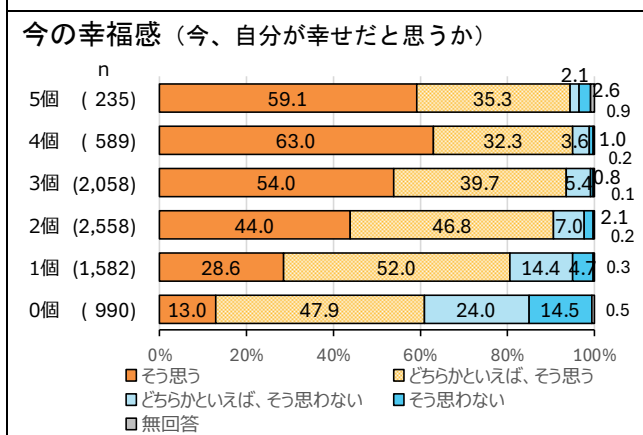
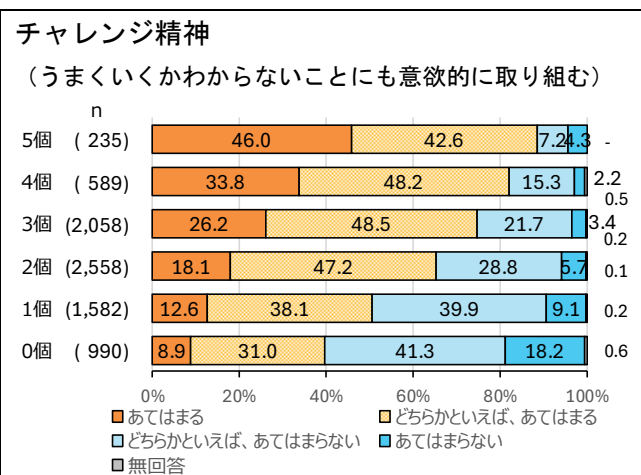
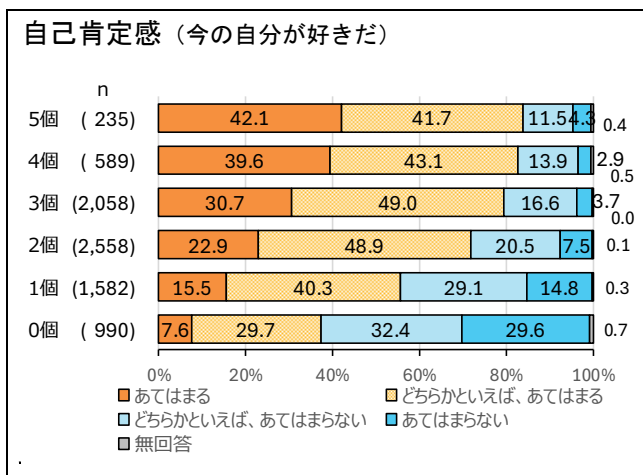
15 〈自己肯定感〉（問1-1エ“今の自分が好きだ”）、〈チャレンジ精神〉（問1-1カ“うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む”）、〈今の幸福感〉（問2）、〈孤独感〉（問6）、〈将来への希望〉（問14）、〈社会貢献意欲〉（問13）、〈心身の健康状態（心）〉（問17ア）、〈心身の健康状態（身体）〉（問17イ）、〈育成支援機関等の認知度〉（問26）、〈育成支援機関等の利用意向〉（問28）、〈相談の希望〉（問24）、〈困難が改善した経験〉（問22）

図表 3-1-3-2-2 ②場の性質及び数と他変数の関連 (a)“安心できる場所”の数別【15歳～39歳】

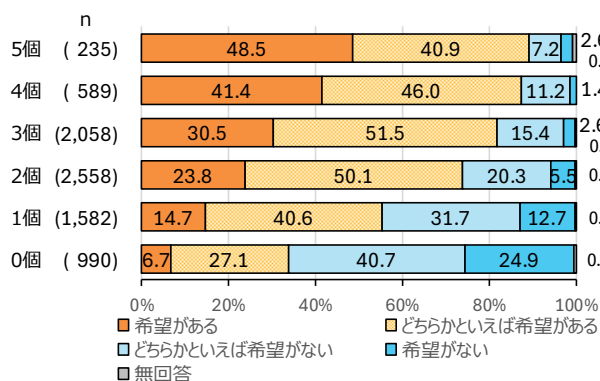




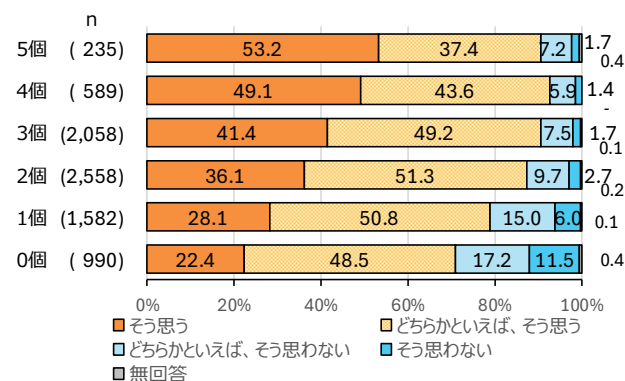
図表 3-1-3-2-3 ②場の性質及び数と他変数の関連 (b)“相談できる人がいる場所”の数別【15歳～39歳】



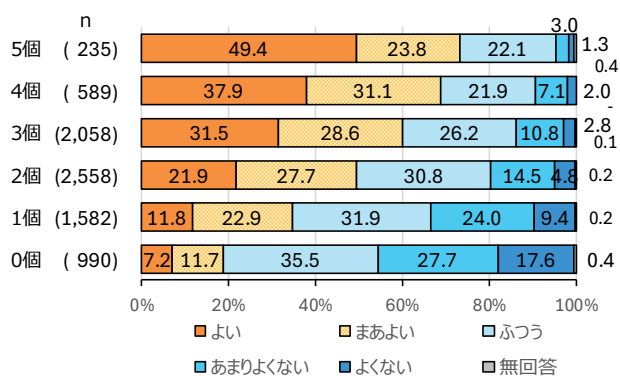
### 将来への希望 (将来に明るい希望があるか)



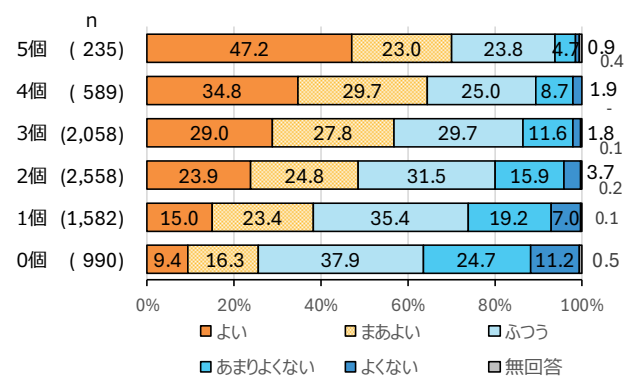
### 社会貢献意欲 (社会のために役立つことをしたいと思うか)



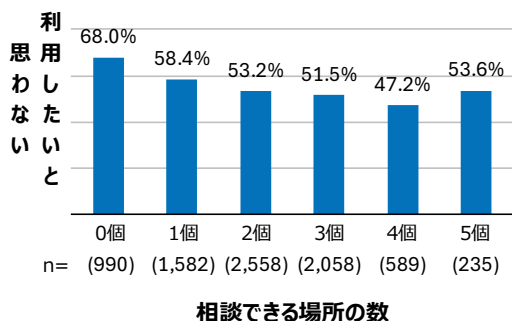
### 心身の健康状態 (心)



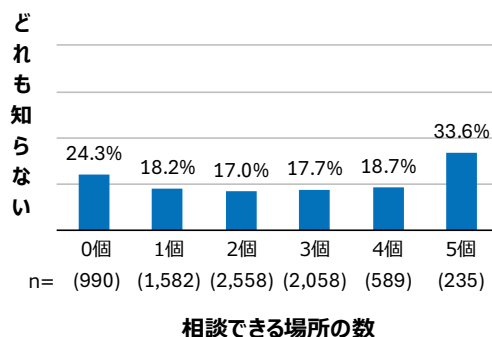
### 心身の健康状態 (身体)



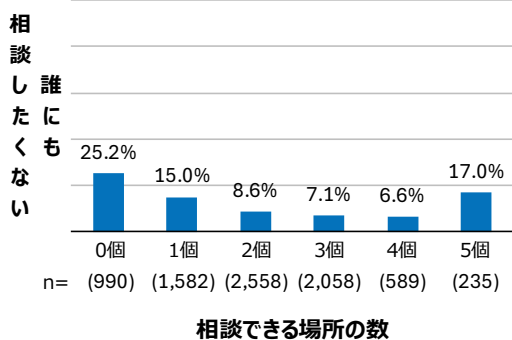
### 育成支援機関等の利用意向 (利用したいと思わない)



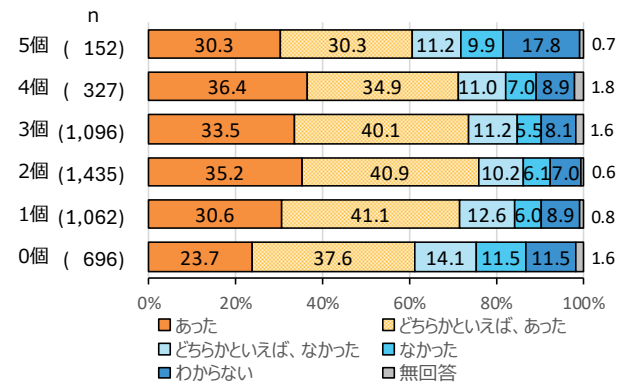
### 育成支援機関等の認知度 (どれもしらない)



### 相談の希望 (誰にも相談したくない)

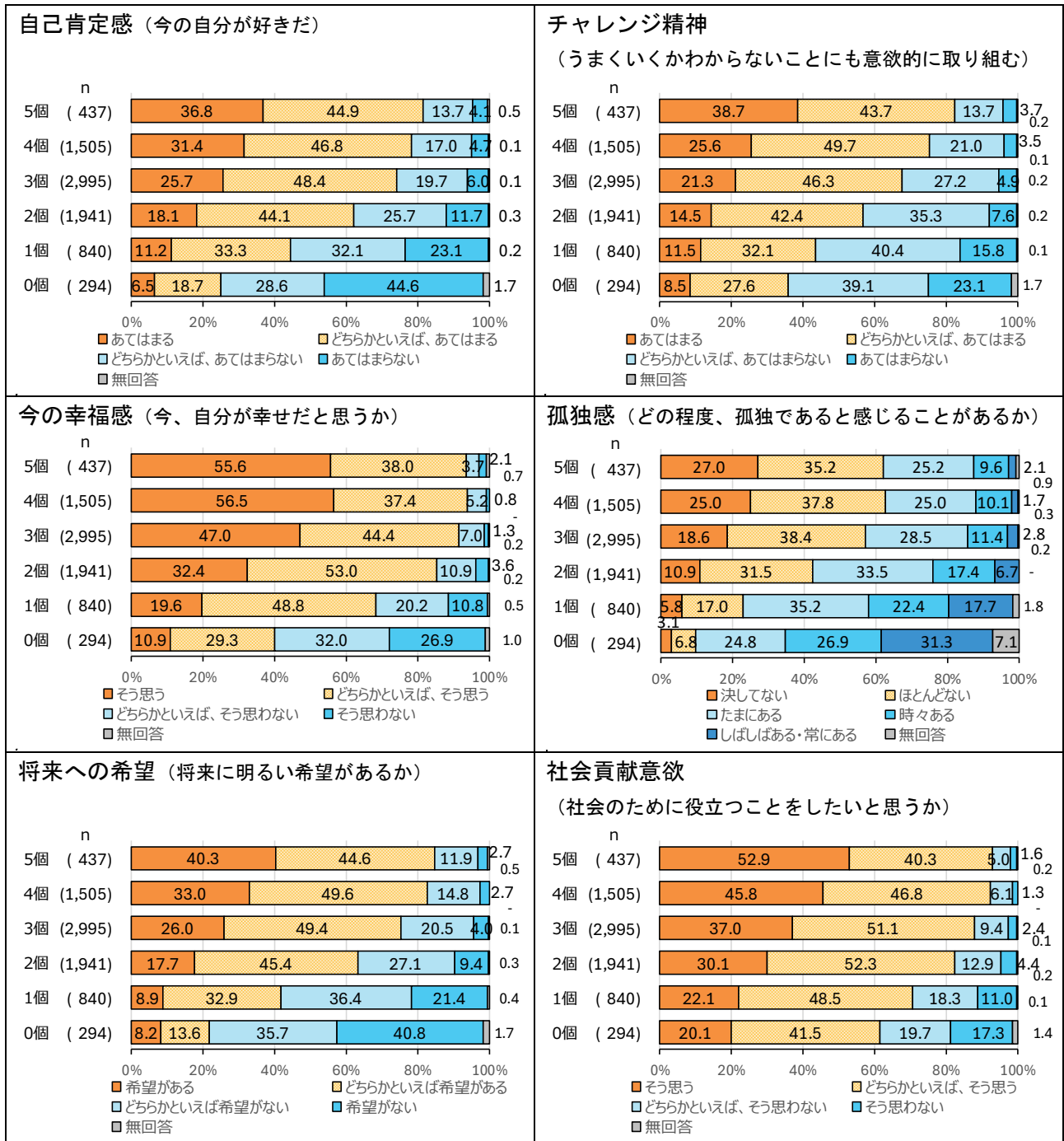


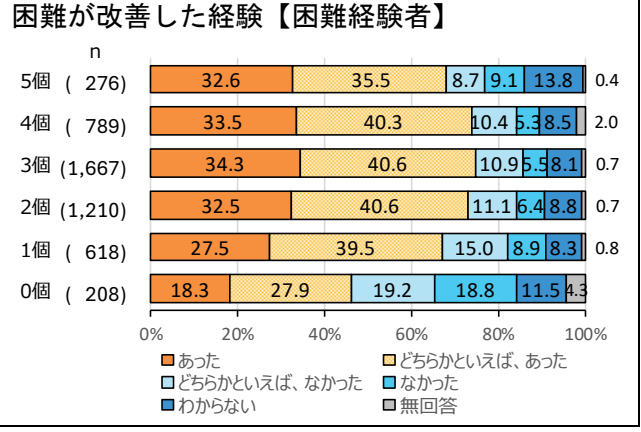
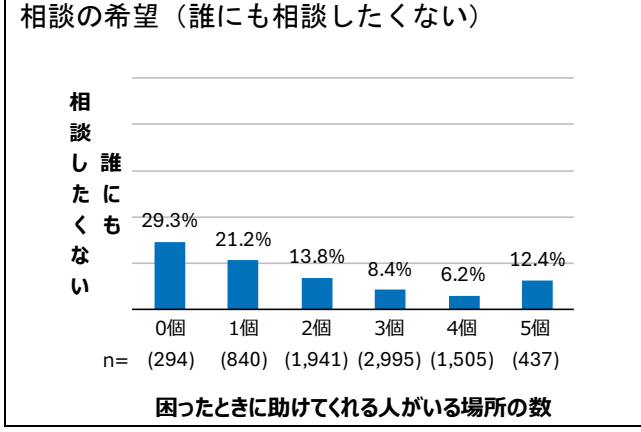
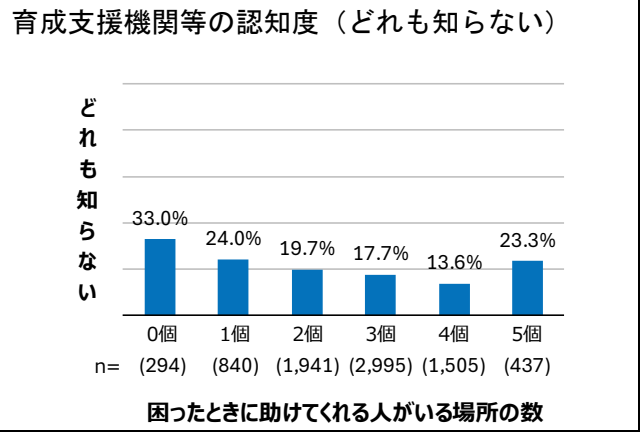
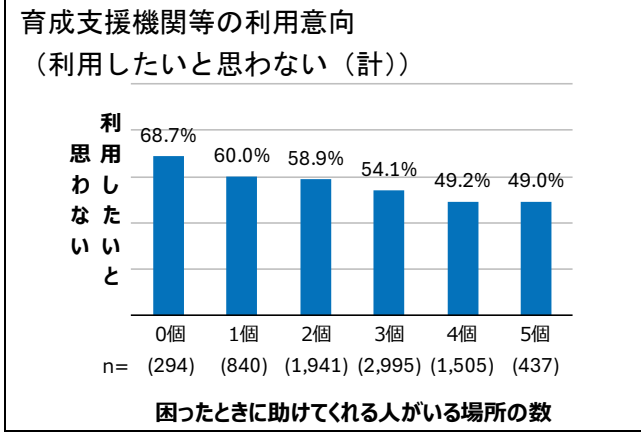
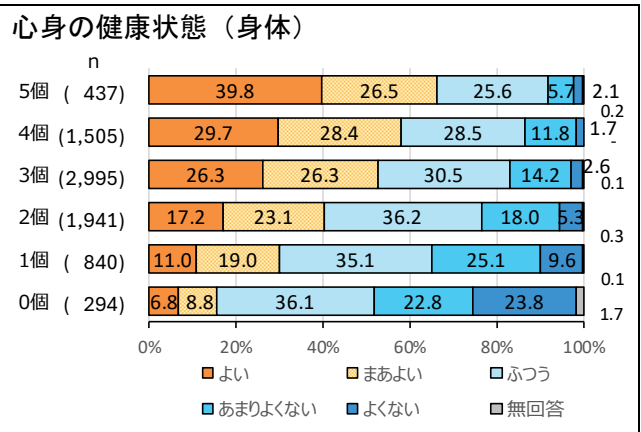
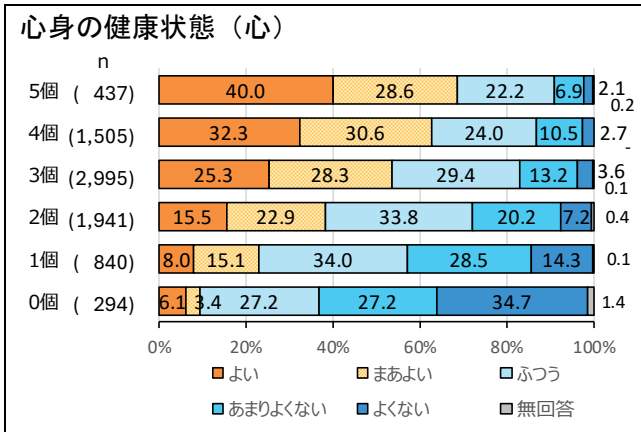
### 困難が改善した経験【困難経験者】



図表 3-1-3-2-4 ②場の性質及び数と他変数の関連

(c) “困ったときに助けてくれる人がいる場所”の数と他変数の関連【15歳～39歳】





#### 4. 困難や悩み事の数と他変数の関連【15歳～39歳】

##### (1) 15歳～39歳対象調査

個人内での複数の困難の重なりが累積的に及ぼす影響を検討するため、今までに経験した困難や悩み事を、自分自身、家族・家庭、学校、仕事・職場の4つの領域について、複数回答で回答を得て(問21)、それぞれの領域において経験した困難や悩み事の数と他変数との関連をクロス分析した。

困難や悩み事の数とのクロス分析を行ったのは、〈自己肯定感〉、〈チャレンジ精神〉、〈今の幸福感〉、〈孤独感〉、〈将来への希望〉、〈社会貢献意欲〉、〈心身の健康状態(心)〉、〈心身の健康状態(身体)〉、〈育成支援機関等の利用意向〉、〈育成支援機関等の認知度〉、〈相談の希望〉の11項目である。

##### ① 自分自身に関する困難や悩み事の数と他変数との関連(図表3-1-4-1-1)：

自分自身に関しては、回答者の約8割が1つ以上の困難・悩み事を挙げている(第2部2章7節(2)参照)。

〈自己肯定感〉、〈チャレンジ精神〉、〈今の幸福感〉、〈孤独感〉、〈将来への希望〉、〈社会貢献意欲〉、〈心身の健康状態(心)〉、〈心身の健康状態(身体)〉はいずれも、困難・悩み事数が少ないほど肯定的な回答が多い傾向がみられ、なかでも〈孤独感〉と〈心身の健康状態(心)〉は、『0個』と『5個以上』での差が大きい(それぞれ約69ポイント、約58ポイント)。

〈育成支援機関等の利用意向〉の『利用したいと思わない(計)』(「利用したいと思わない」と「どちらかといえば利用したいと思わない」の合計)、〈育成支援機関等の認知度〉の「どれも知らない」の割合は、概ね困難・悩み事数が多いほど低くなるが、差は約10～11ポイント程度にとどまる。〈相談の希望〉の「誰にも相談したくない」割合は、いずれの個数でも10～14%である。

##### ② 家族・家庭に関する困難や悩み事の数と他変数との関連(図表3-1-4-1-2)：

家族・家庭に関して、1つ以上の困難・悩み事を挙げた回答者は約4割である(第2部2章7節(2)参照)。

困難数と各変数との関連をみると、概ね困難・悩み事数が少ないほど肯定的な回答の割合が高いものが多いが、自分自身に関する困難・悩み事の場合ほど大きな差が見られない。『0個』と『5個以上』で30ポイント以上の差があるのは、〈孤独感〉と〈心身の健康状態(心)〉だけだった。〈チャレンジ精神〉での差は約16ポイント、〈社会貢献意欲〉では約8ポイントと、ほかの変数に比べて小さい。

〈育成支援機関等の利用意向〉の『利用したいと思わない(計)』の割合は、困難・悩み事数『1個』以上はいずれも50～53%程度で『0個』(57.8%)より低い、差は約5～8ポイント程度である。〈育成支援機関等の認知度〉の「どれも知らない」の割合は、困難・悩み事数が多いほど低い。〈相談の希望〉の「誰にも相談したくない」は、いずれの個数でも1割前後である。

##### ③ 学校に関する困難や悩み事の数と他変数との関連(図表3-1-4-1-3)：

学校に関して、1つ以上の困難・悩み事を挙げた回答者は約5割である(第2部2章7節(2)参照)。

困難・悩み事数と各変数との関連をみると、概ね困難・悩み事数が少ないほど肯定的な回答の割合が高いものが多いが、自分自身の場合ほど大きな差が見られない。『0個』と『5個以上』で30ポイント以上の差があるのは、〈孤独感〉が約45ポイントと最も大きく、次いで〈将来への希望〉、〈心身の健康状態(心)〉、〈自己肯定感〉、〈心身の健康状態(身体)〉が約31～33ポイントである。

〈育成支援機関等の利用意向〉の『利用したいと思わない(計)』の割合は、困難・悩み事数が多いほど低い、差は約8ポイントにとどまる。〈育成支援機関等の認知度〉の「どれも知らない」の割合は困難・悩み事数『1個』以上はいずれも約14～16%で、『0個』(23.5%)より低い、差は

8～10ポイント程度である。〈相談の希望〉の「誰にも相談したくない」の割合は、学校の悩み事の個数によらず、『0個』から『5個以上』のいずれにおいても1割前後である。

④ 仕事・職場に関する困難や悩み事の数と他変数との関連（図表 3-1-4-1-4）：

仕事・職場に関して、1つ以上の困難・悩み事を挙げた回答者は約6割である（第2部第2章7節（2）参照）。

困難・悩み事数と各変数との関連をみると、概ね困難・悩み事数が少ないほど肯定的な回答の割合が高いものが多いが、自分自身の場合ほど大きな差が見られない。『0個』と『5個以上』で30ポイント以上の差があるのは、〈孤独感〉、〈心身の健康状態（心）〉、〈将来への希望〉、〈心身の健康状態（身体）〉の4つである（それぞれ約41ポイント、約36ポイント、約33ポイント、約30ポイント）。

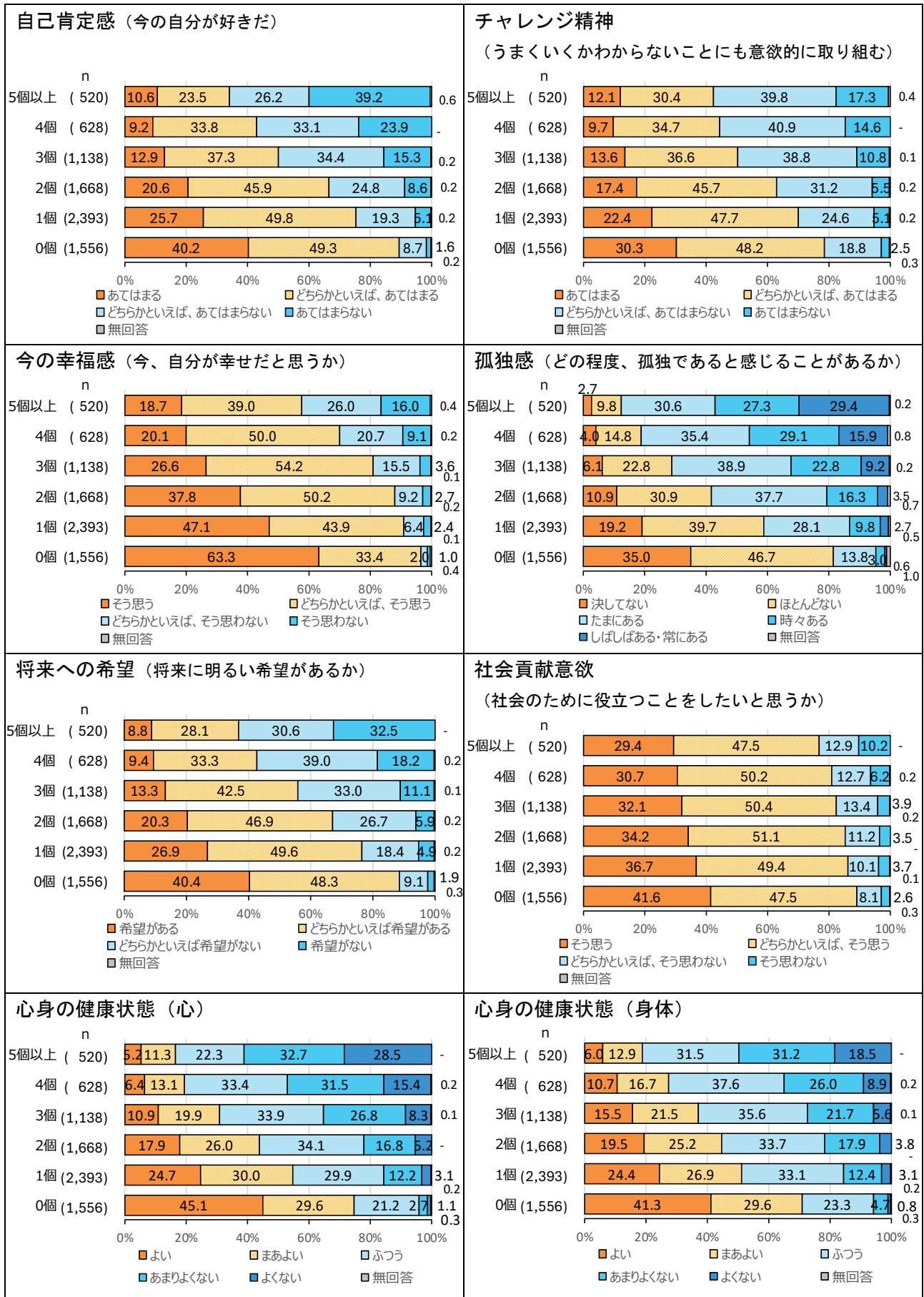
〈育成支援機関等の利用意向〉の『利用したいと思わない（計）』、〈育成支援機関等の認知度〉の「どれも知らない」、〈相談の希望〉の「誰にも相談したくない」という回答の割合はいずれも、『0個』が『1個』以上より少し高いが、4～9ポイント程度の差にとどまる。

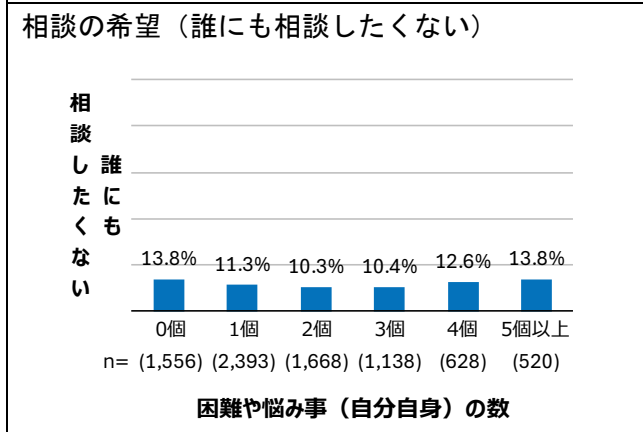
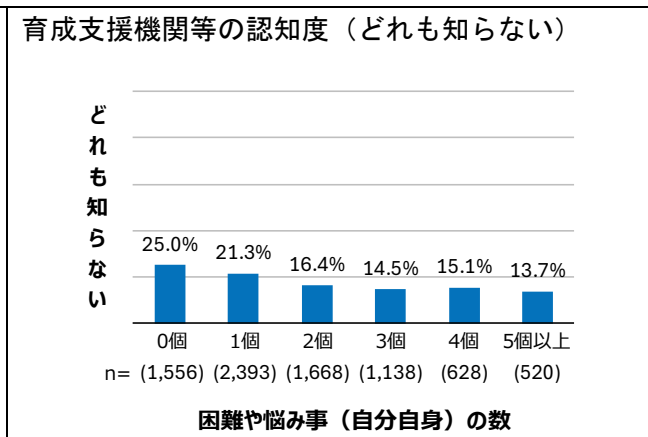
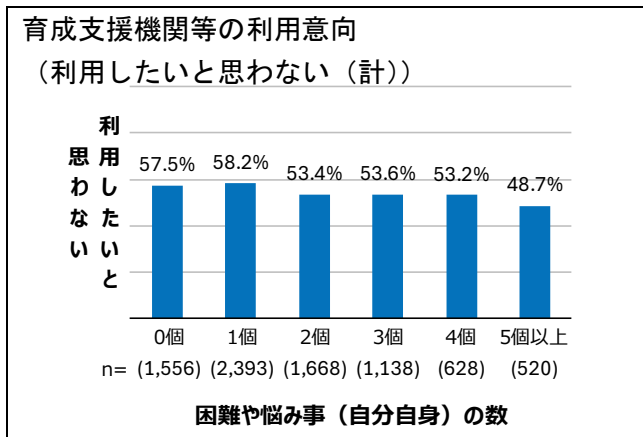
⑤ 自分自身、家族・家庭、学校、仕事・職場4領域合計の悩み事の数と他変数の関連（図表 3-1-4-1-5）：

4領域の困難・悩み事数の合計でみると、いずれの変数も概ね、困難・悩み事数が少ないほど、肯定的な回答の割合が高くなる。『0～2個』と『15個以上』での肯定的な回答割合の差が大きいのは、〈孤独感〉（約60ポイント）で、次いで〈心身の健康状態（心）〉、〈将来への希望〉、〈自己肯定感〉、〈心身の健康状態（身体）〉がいずれも40ポイント台である。

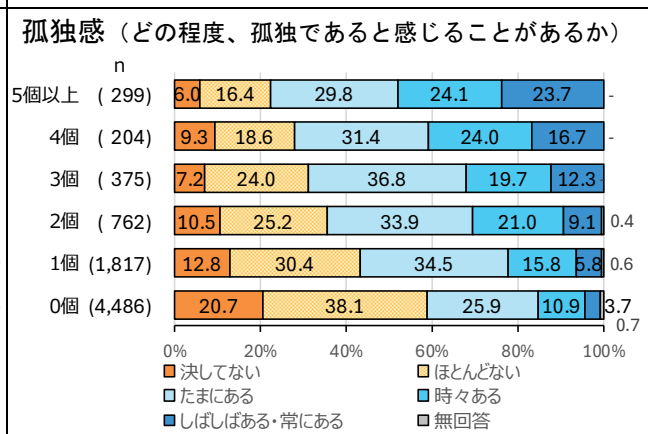
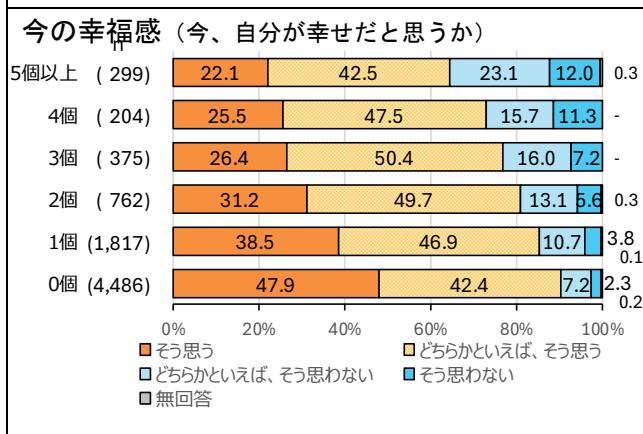
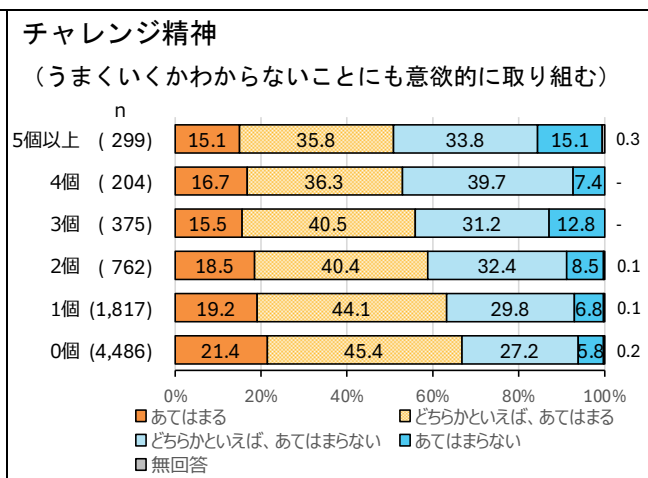
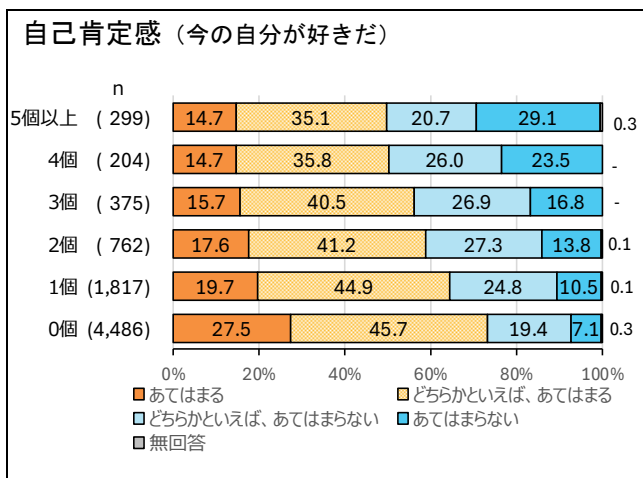
〈育成支援機関等の利用意向〉の『利用したいと思わない（計）』の割合は、『0～2個』が3個以上よりやや高いが差は4～10ポイント程度で、3個以上でははっきりした傾向は見られない。〈育成支援機関等の認知度〉の「どれも知らない」の割合は、『0～2個』から『12～14個』までは個数が多いほど低くなる。〈相談の希望〉の「誰にも相談したくない」は、いずれの個数でも1割台前半である。

図表 3-1-4-1-1 「困難や悩み事の数」と他変数の関連 ①自分自身【15歳～39歳】

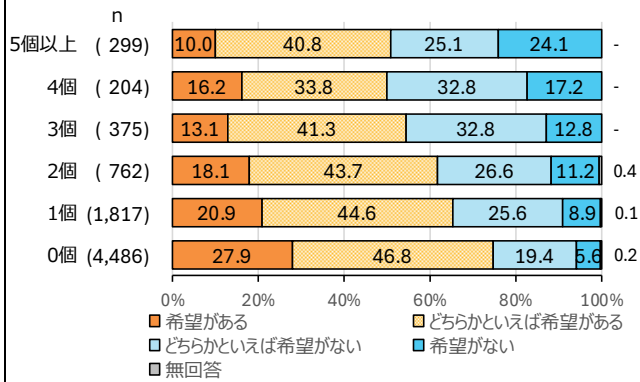




図表 3-1-4-1-2 「困難や悩み事の数」と他変数の関連 ②家族・家庭【15歳～39歳】

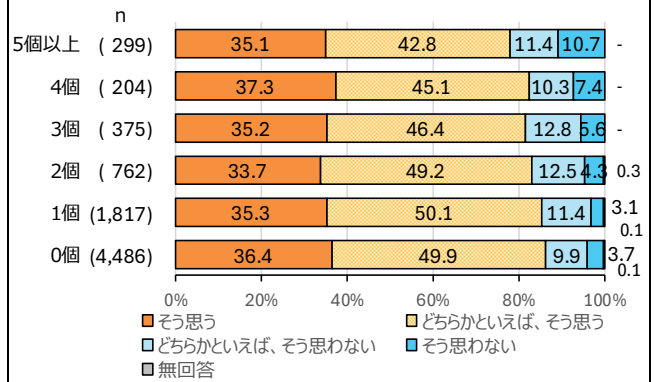


### 将来への希望 (将来に明るい希望があるか)

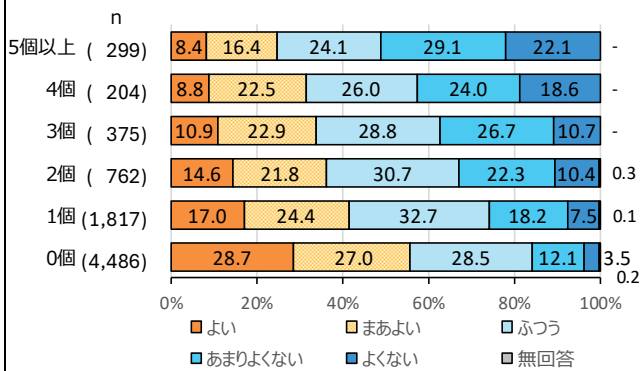


### 社会貢献意欲

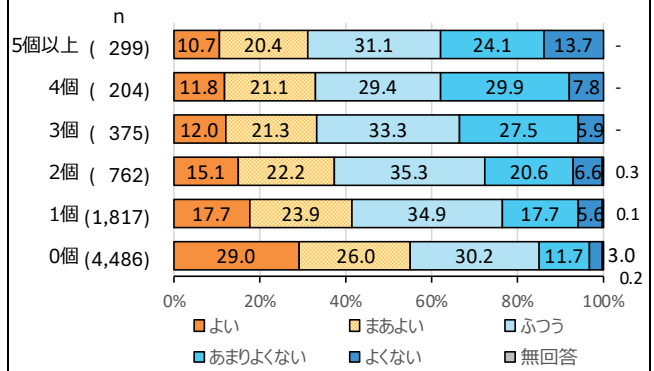
(社会のために役立つことをしたいと思うか)



### 心身の健康状態 (心)

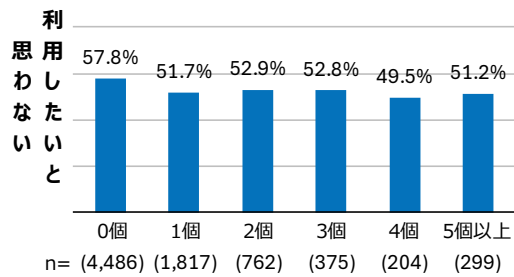


### 心身の健康状態 (身体)



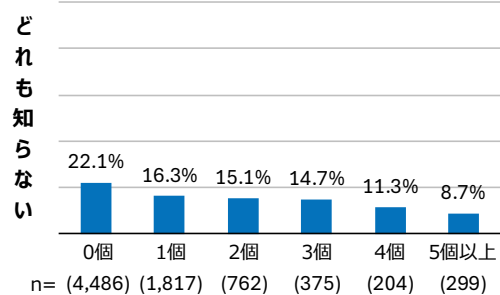
### 育成支援機関等の利用意向

(利用したいと思わない (計))



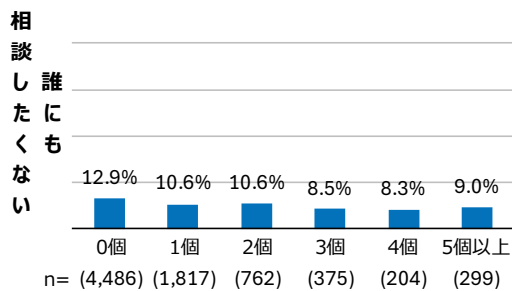
困難や悩み事 (家族・家庭) の数

### 育成支援機関等の認知度 (どれも知らない)



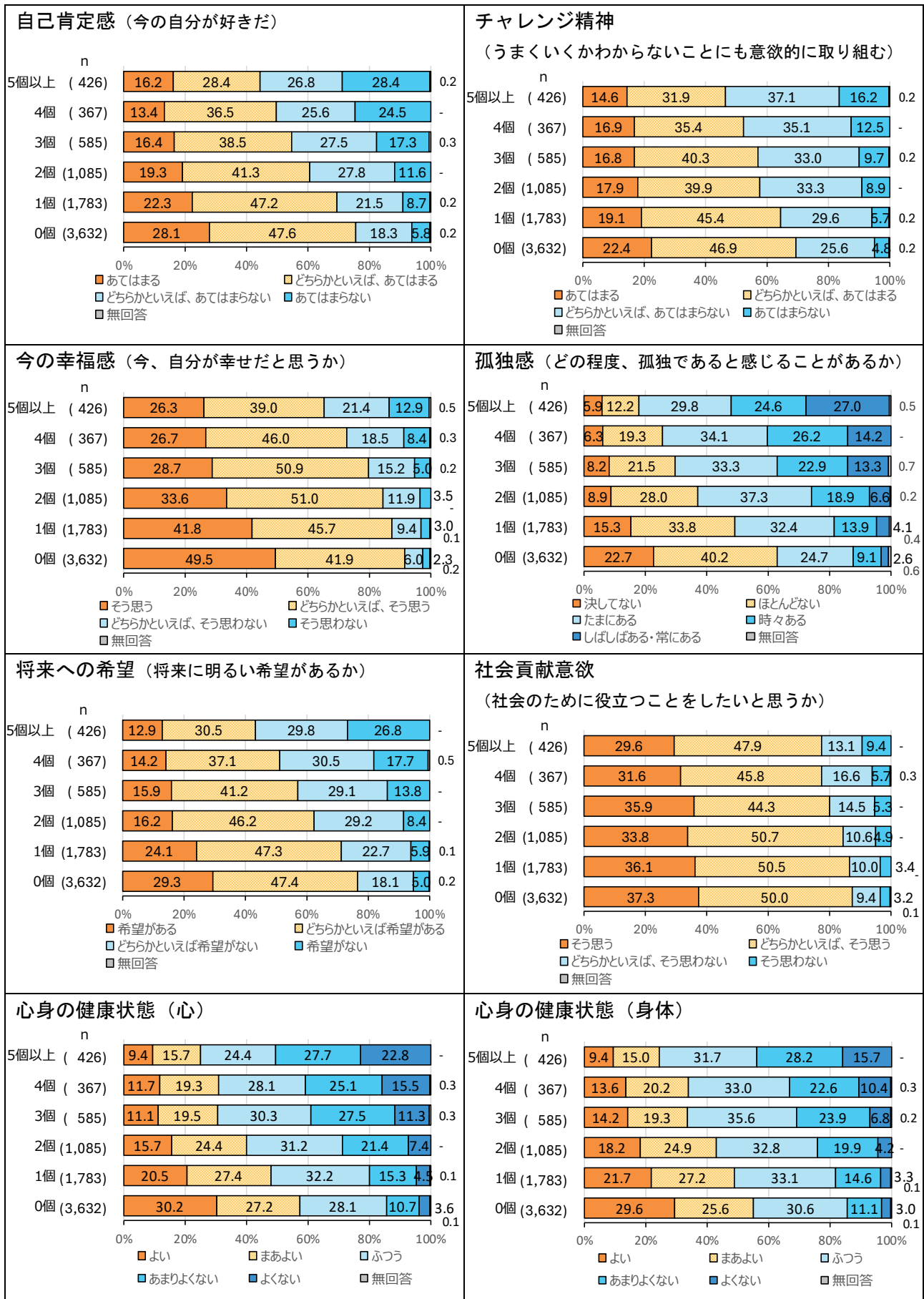
困難や悩み事 (家族・家庭) の数

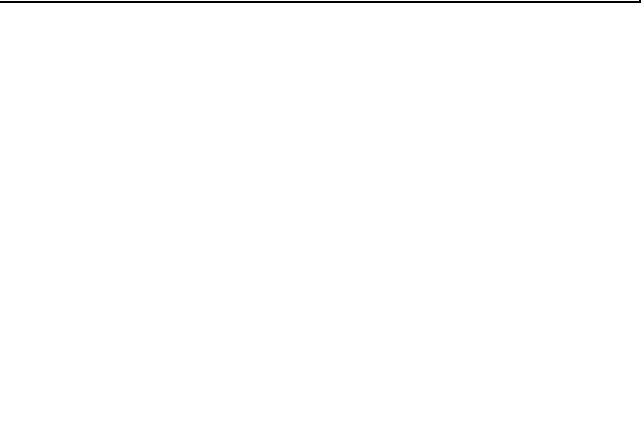
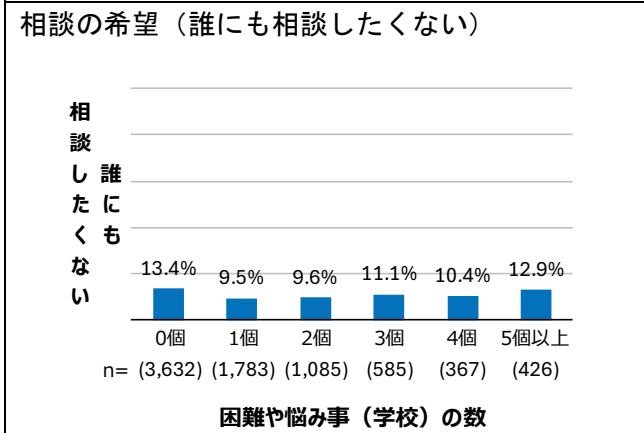
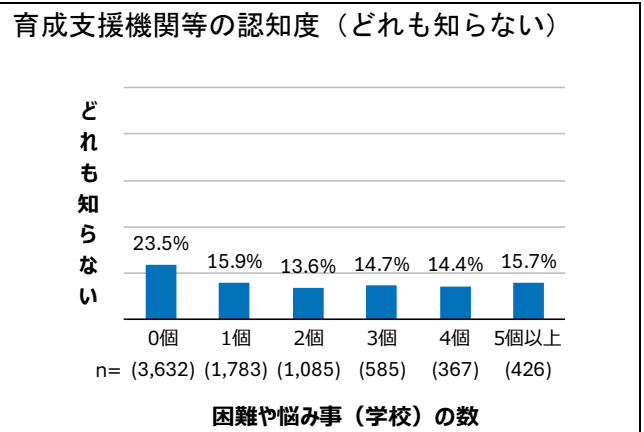
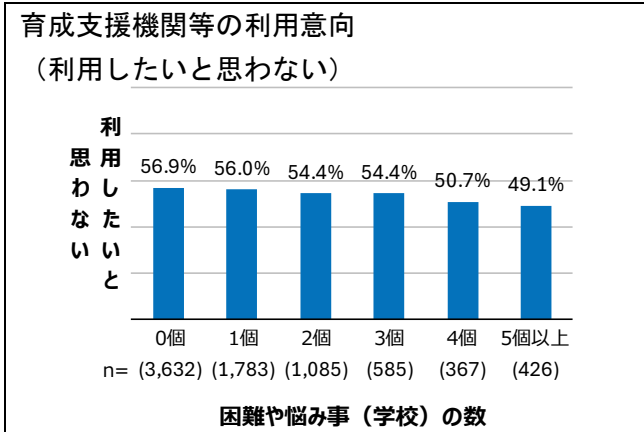
### 相談の希望 (誰にも相談したくない)



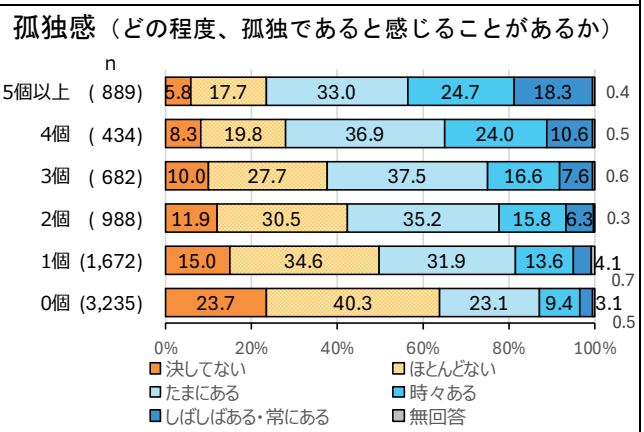
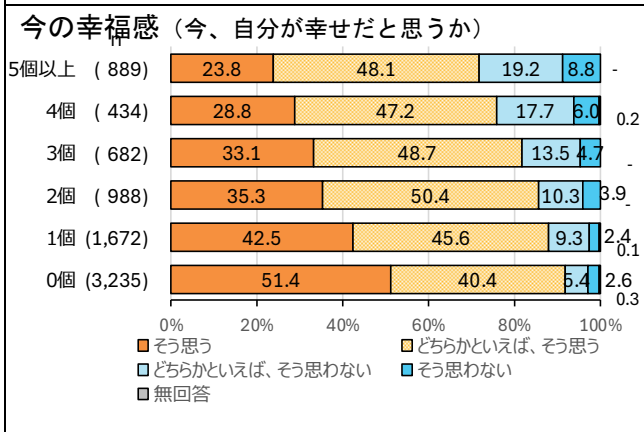
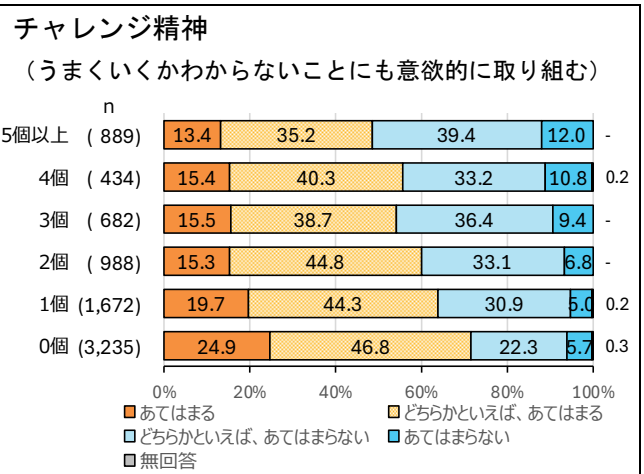
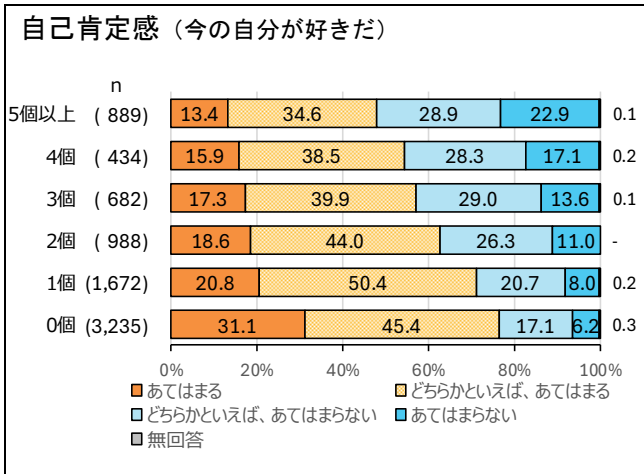
困難や悩み事 (家族・家庭) の数

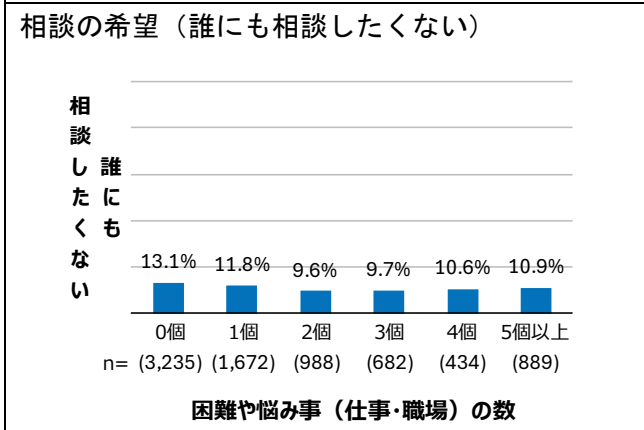
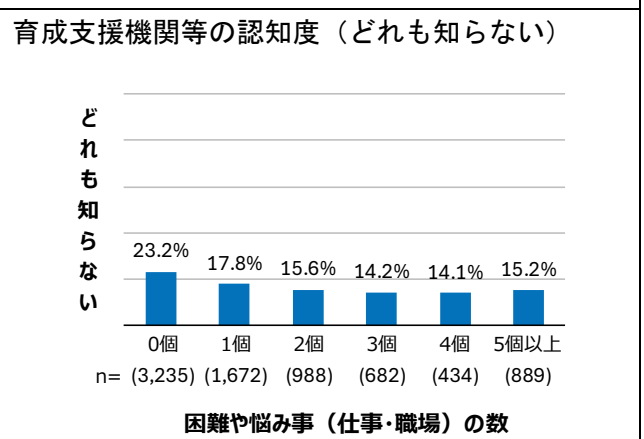
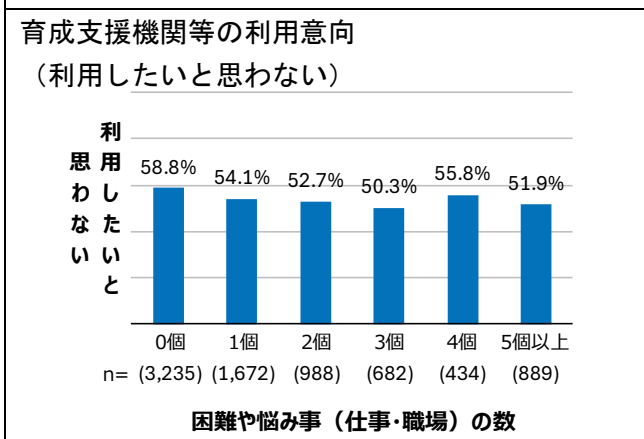
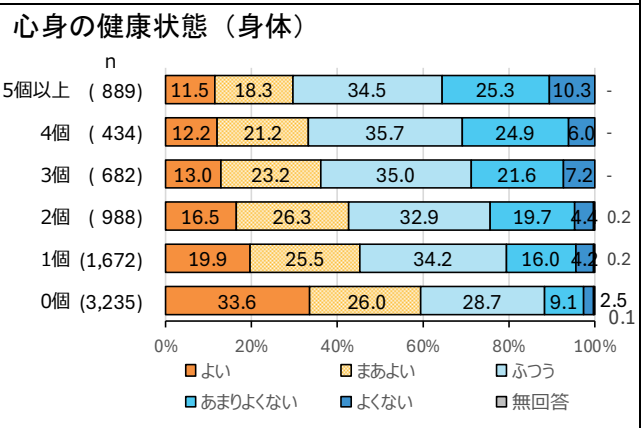
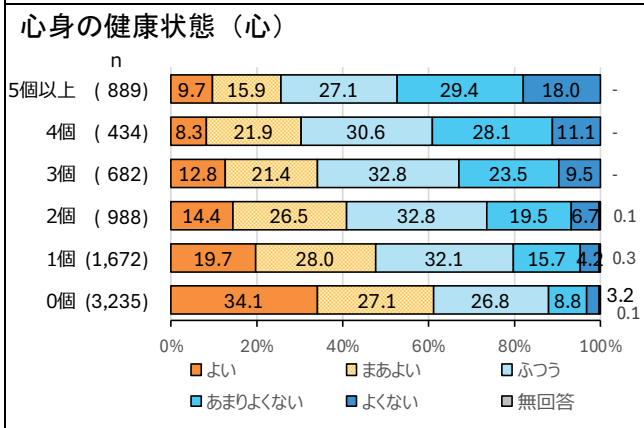
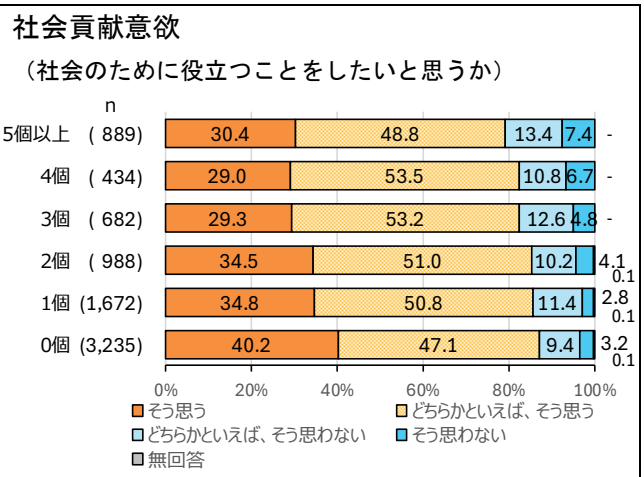
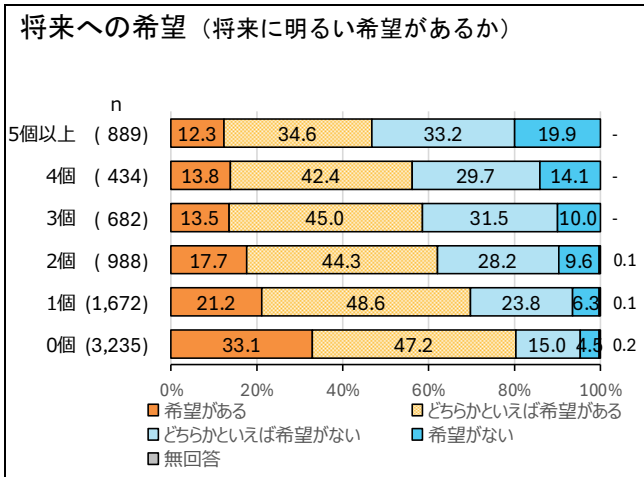
図表 3-1-4-1-3 「困難や悩み事の数」と他変数の関連 ③学校【15歳～39歳】





図表 3-1-4-1-4 「困難や悩み事の数」と他変数の関連 ④仕事・職場【15歳～39歳】





図表 3-1-4-1-5 「困難や悩み事の数」と他変数の関連

⑤自分自身、家族・家庭、学校、仕事・職場4領域の困難や悩み事の数合計【15歳～39歳】

